

飯能市郷土館館報

# 郷土館のプロフィール

*Profile 2008*

活動報告書

第6号

平成20年度



飯能市郷土館

## あいさつ

飯能市郷土館館報(活動報告書)第6号をお届けします。

この館報は、当館の活動をその内容だけでなく、事業評価を盛り込みながら記録としてまとめたもので、自発的な情報公開を目的として発行するものです。

館報はこれまで、3年に1度発行していました。しかし、この発行間隔では最新のデータを掲載することができず、十分に活用されないおそれがありました。活動成果をスピーディに公表し、1年間の事業内容を振り返り、次年度の事業展開に役立てるなど積極的な活用をするために、毎年発行することといたしました。

今回収録したのは平成20年度の事業です。この年は、大学で歴史を学ぶ学生たちが参加する地方史料調査会との、6年間にわたる文書整理の成果が収蔵資料目録4として刊行されました。また、飯能の商店街で行われている「雛飾りお宝展 in 飯能」に合わせて開催した「ひなまつり」展では多くの方が足を運んでくれました。これらをふりかえってみると、平成20年度は、当館と外部の団体との協働作業が結実した年であったということができるとは思いませんか。

当館は、地域情報が集まる場、市民が交流する場、そして飯能ならではのものを発信していく場になるよう努力してまいります。今後も多くの市民の皆さまのご参加、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成22年3月

飯能市郷土館館長

新井 孝治

# 目 次

---

あいさつ	1
目 次	2
沿 革	3

---

## 第1章 施設

建物平面図	6
面積表・施設修繕	7
常設展示の概要	8

---

## 第2章 事業

飯能市郷土館学芸員の仕事	10
平成20年度の事業	12
展 示	
(収藏品展・特別展)	13
(その他の展示)	18
講座・学習会	21
交流	24
博学連携	30
資料・施設の利用	35
レファレンスの対応	40
講師派遣	41
収集	42
整理・保存	43
調査・研究	47
刊行物	48
広報	49
名栗村史編さん事業	50
郷土館協議会	51
博物館実習	52

---

## 第3章 各種データ

入館者数	54
歳出予算	55
図書資料寄贈機関	56
職員	57
飯能市郷土館条例・施行規則	58

---

表紙：「飯能市郷土館」ペン・水彩 1990年 小島喜八郎画

# 沿革

昭和46年3月	「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店より寄付された1千200万円が予算化される。
昭和50年4月	飯能市総合振興計画の基本構想に郷土館建設がうたわれる。
昭和61年3月	(株)丸広百貨店より寄付された観光施設整備基金約2億1千万円を郷土館建設基金に繰り入れる。
昭和61年6月	飯能市文化財保護審議委員会へ、郷土館建設基本構想・基本計画策定について諮問する。
昭和62年3月	飯能市文化財保護審議委員会から基本構想・基本計画が答申される。
昭和62年7月	(株)平安設計による建築設計を開始する。
昭和62年10月	(株)タイムアートデザインによる展示基本設計を開始する。
昭和63年3月	市川・前久保建設共同企業体による建築工事に着工する。
平成元年4月	社会教育課内に郷土館準備係(係長1、係員1)が配置される。
平成元年6月	(株)タイムアートデザインによる展示工事に着工する。
平成元年12月	飯能市郷土館条例が制定される。
平成2年4月	飯能市郷土館友の会が結成される。
平成2年4月	<b>飯能市郷土館が開館する。</b> (常勤職員は館長、学芸員1、主事補1)
平成2年4月	開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」・「わたしの宝物 -思い出に残る品々-」開催。
平成2年8月	特別展「戦時中の暮らし」開催。
平成2年8月	夏休み子ども歴史教室開催。(以後、毎年開催)
平成2年10月	特別展「飯能文化萌ゆ」開催。
平成2年11月	古文書講座「むかしの飯能を知ろう」開催。この講座の受講生を中心に「古文書同好会」が結成され自主活動を続ける。
平成3年2月	特別展「ひなまつり」開催。
平成3年4月	特別展「能仁寺と黒田氏」開催。
平成3年7月	友の会主催の郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」開催。
平成3年10月	特別展「絹は語る」開催。
平成4年4月	特別展「写真にみる幕末・明治」開催。
平成4年8月	埋蔵文化財出土品展「掘り起こせ! 古代からのメッセージI」を開催。(生涯学習課と共催。平成6年までは毎年、その後は隔年で開催)
平成4年10月	特別展「絵図からの伝言」開催。この特別展より企画委員会を組織し、展示構成を検討することとなる。
平成5年1月	友の会主催による「まゆ玉づくり」開催。以後、毎年開催する。
平成5年4月	特別展「商 -飯能の広告展-」開催。
平成5年6月	開館以来の入館者数が10万人を突破。
平成5年10月	特別展「碑 -連帯のエネルギー-」開催。
平成6年3月	『飯能昭和史年表』発行。
平成6年4月	開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催。この展示で、初めて特別展の図録をつくる。
平成6年10月	特別展「ジャパンマイセン -瀬戸の磁器人形-」開催。この展示で、1日平均入館者数最多の205.6人を記録する。(開館記念特別展は除く)
平成7年4月	特別展「いろどりとにぎわいのとき -飯能の民俗芸能・屋台囃子と獅子舞-」開催。
平成7年7月	常勤職員が4人(館長、学芸員2、主事補1)となる。
平成7年10月	特別展「飯能の村医者 -幕末・明治の医療-」開催。
平成8年4月	特別展「猫・ねずみ -絵ぞうし展-」開催。
平成8年5月	開館以来の入館者数が20万人を突破。

平成8年8月 常設展示等企画委員会発足。(任期は平成10年3月まで)

平成8年10月 特別展「飯能の刀匠 -小沢正壽を中心として-」開催。会期中に展示図録が完売する。

平成9年3月 『飯能市郷土館館報』第1号発行。

平成9年3月 特別展「明治のハイカラ美人 -手彩色絵葉書-」開催。

平成9年10月 特別展「祈りのメッセージ -飯能の絵馬-」開催。

平成10年4月 特別展「高麗の里の独楽展 -昔遊びのすすめ-」開催。

平成10年4月 「やさしい古文書講座」開催。この講座の受講生を中心に「古文書勉強会」が結成され自主活動を続ける。

平成10年8月 恒例の「夏休み子ども歴史教室」を「夏休み親子歴史教室」と改称して実施。

平成10年9月 「中学校社会科研究展」開催。(以後毎年開催)

平成10年10月 特別展「時の記憶 -飯能の写真展-」開催。

平成10年12月 開館以来の入館者数が30万人を突破。

平成11年3月 収藏品展開催。(これ以降、毎年春に収藏品展を開催することとする)

平成11年10月 開館10周年記念特別展「わたしの宝物展」開催。

平成12年1月 第Ⅰ期市民学芸員養成講座開始。

平成12年2月 特別展「飯能スポーツ史」開催。

平成12年3月 **博物館法に基づく登録博物館となる。**

平成12年10月 特別展「飯能、戦後の暮らし」開催。

平成13年2月 第Ⅱ期市民学芸員養成講座開始。

平成13年3月 『研究紀要』第1号発行。

平成13年5月 「郷土館だより」創刊号発行。

平成13年9月 これまでの「中学校社会科研究展」に小学生も対象に加え、「小中学校社会科研究展」として開催。

平成13年10月 特別展「黎明のとき -飯能焼・原窯からの発信-」開催。この特別展より夜間開館を実施する。

平成14年10月 特別展「うちおり -織物に込められた想い-」開催。

平成14年10月 郷土館ホームページをインターネット上に公開開始する。

平成15年3月 『収蔵資料目録』Ⅰ発行。

平成15年7月 市制施行50周年記念特別事業として特別展「写真でたどる飯能市の50年」開催。

平成15年8月 開館以来の入館者数が40万人を突破。

平成15年10月 特別展「中山氏と飯能・高萩 -時と街を結んだ武士の系譜-」開催。

平成16年2月 第Ⅲ期市民学芸員養成講座開始。

平成16年10月 入間川4市1村合同企画展「筏師が見た入間川 -その流域の今昔-」開催。

平成17年1月 名栗村との合併にともない、名栗村史編さん事業を当館が引き継ぐ。

平成17年1月 常勤職員が5人(館長、学芸員2、主査2)となる。

平成17年10月 特別展「飯能の水力発電 -吾野・名栗に電気がひけた日-」開催。

平成19年3月 当館所蔵の「飯能の西川材関係用具」が埼玉県有形民俗文化財に指定される。

平成19年4月 常勤職員5人のうち館長以外の職員が全て学芸員となる。

平成19年4月 開館以来の入館者が50万人を突破する。

平成19年4月 郷土館ホームページを全面的に更新する。

平成19年4月 第Ⅳ期市民学芸員養成講座開始。

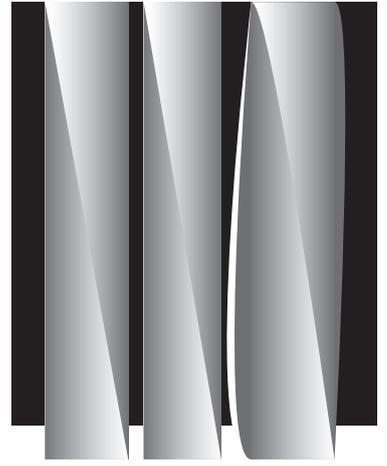
平成19年6月 市民のコレクションを展示する第1回「マイ・コレ。」(マイ・コレクション展)を開催する。(以後、毎年2回開催)

平成19年10月 特別展「西川林業の道具 -森林文化の遺産-」開催。

平成20年3月 『名栗の民俗(下)』、『名栗の歴史(上)』刊行。

平成20年4月 常勤職員が4人(館長、学芸員3)となる。

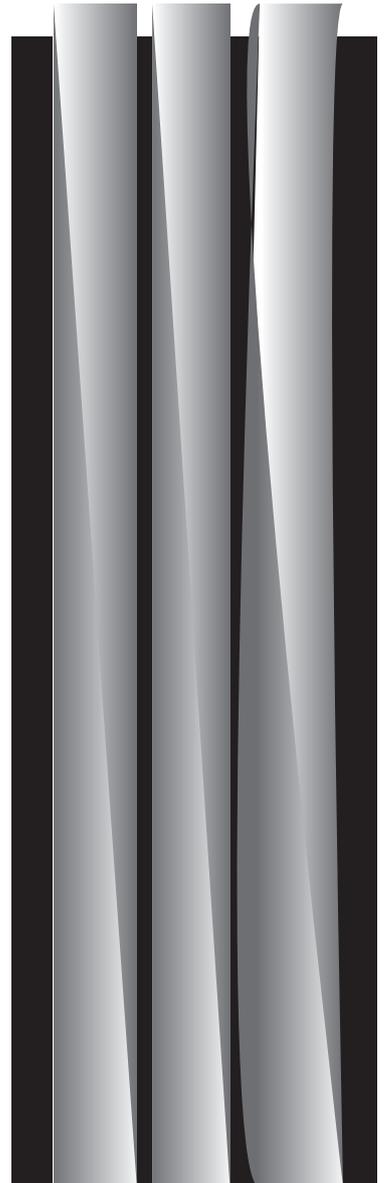
平成20年10月 特別展「名栗の歴史」開催。



# 第 1 章

..... Chapter 1 .....

## 【 施 設 】



# 建物平面図

## < 1階 >

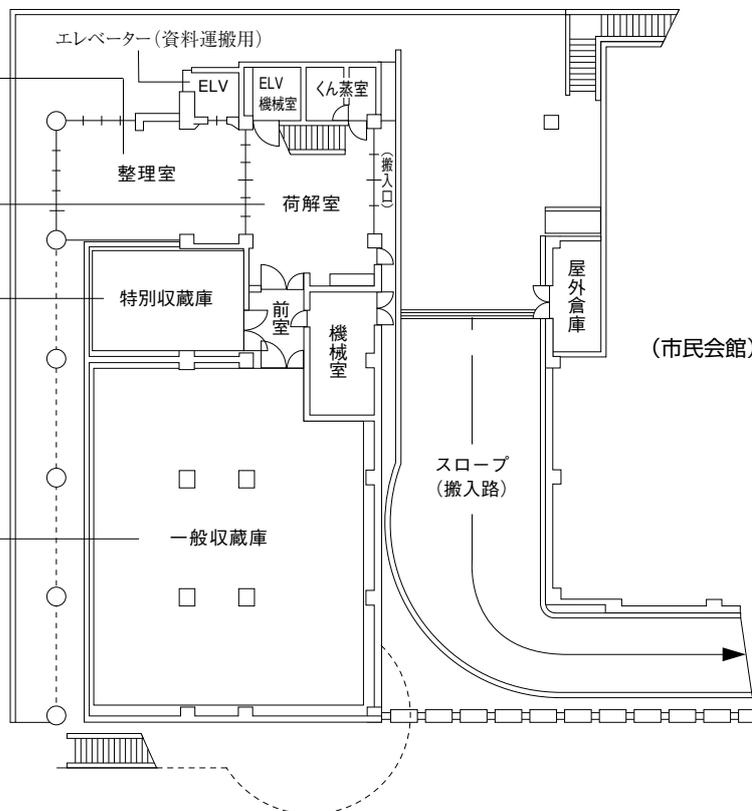
収蔵資料の台帳やカードを作成しその情報を整理する部屋。

搬入された資料の梱包を解く部屋。年1回行われる資料の被覆燻蒸もここで行われる。

古文書・典籍など約25,000点のほか貴重な資料が収蔵されている。

民具約4,900点、絵画約280点などを収蔵している。

◀ (飯能河原)



## < 2階 >

※ < R階 > 階段をあがると展望台があり、龍涯山、前ヶ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。

▶ (駐車場)

主に資料の調査・研究を行う部屋。他市町村で刊行した図書類もある。

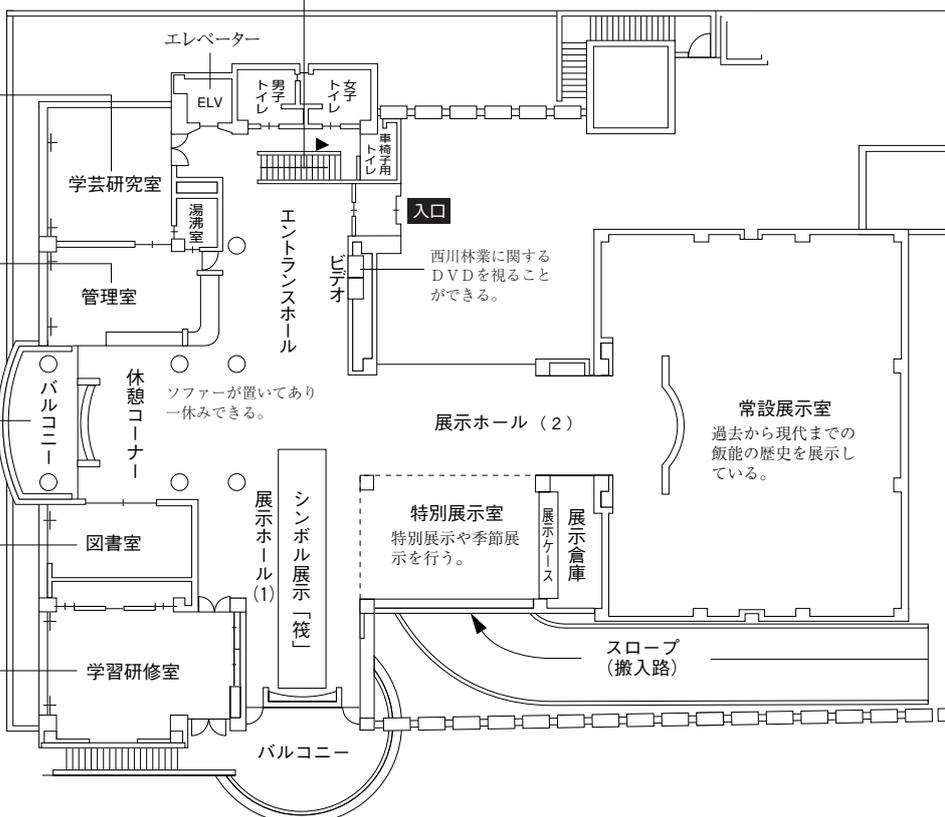
職員がいる部屋。館内の照明や空調などの管理及び刊行物の販売、来館者の質問や電話によるレファレンスに対応する。

ここからの眺めは最高！飯能河原が一望できる。

飯能の歴史や文化、博物館に関連する図書が配架されている。

講座や学習会を実施するほか、定点撮影プロジェクトや市民学芸員の会合を行う。

◀ (飯能河原)



## 面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積
<b>1 階</b>	497.458	休憩コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	車椅子用トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
<b>2 階</b>	959.774	エレベーター	7.500
常設展示室	273.965	<b>R 階</b>	40.040
特別展示室	59.850	階段	15.846
展示倉庫	20.675	階段ホール	15.944
展示ホール (1)	139.750	エレベーター	8.250
展示ホール (2)	88.128		
エントランスホール	103.131	合計	1,497.272

〈用途別面積一覧表〉

用途	内 訳	面積 (㎡)	割合 (%)
教育普及	展示 (常設展示室・特別展示室・展示ホール)	561.693	37.5
	その他 (学習研修室)	62.779	4.2
収集・保存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調査・研究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管理	(管理室)	38.558	2.6
その他		377.72	25.2

敷地面積 3,626.12 ㎡ 建築面積 1,165.999 ㎡

## 施設修繕

- ・屋根雨漏り修繕 (4月)
- ・正面入口誘導灯移設 (5月)
- ・風除室内扉自動ドア装置交換工事 (6月)
- ・エントランスホール照明器具(蛍光灯)修理 (8月)
- ・排水ポンプ制御修繕 (2月)
- ・駐車場看板の建て替え (2月)
- ・屋外倉庫照明器具(蛍光灯)吊り下げ高さ変更 (3月)
- ・展示ホール西側天井照明器具(蛍光灯)吊り下げ高さ変更 (3月)

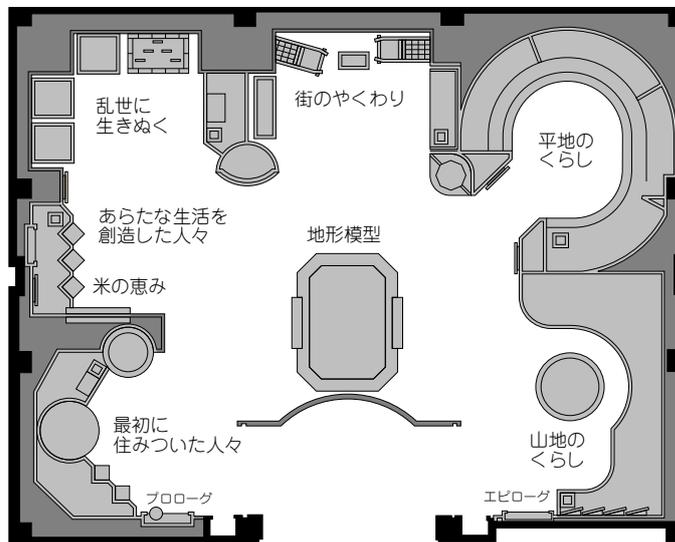
## 常設展示の概要

常設展示には、展示ホール（1）のシンボル展示「筏」と、常設展示室の展示がある。常設展示室は、下図のように地形模型を中心とした9つのテーマから構成され、飯能の歴史が旧石器時代から現代まで時代を追ってわかるようになっている。

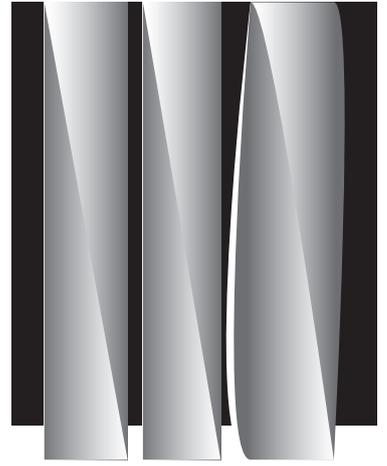
なお、常設展示の展示替えについては、平成8・9年度に学識経験者による常設展示等企画委員会を立ち上げ、開館10周年にあたる平成11年度の実施を目指して運営も含めた検討を行ったことがあった。この委員会からは報告書が出されたが、財政難などの理由からそれを実現することができず現在に至っている。

ただし、資料保存の観点から、また研究成果を反映させるために部分的な展示替えはこれまでも行ってきたところである。

なお、平成20年度は展示資料等の変更はなかった。



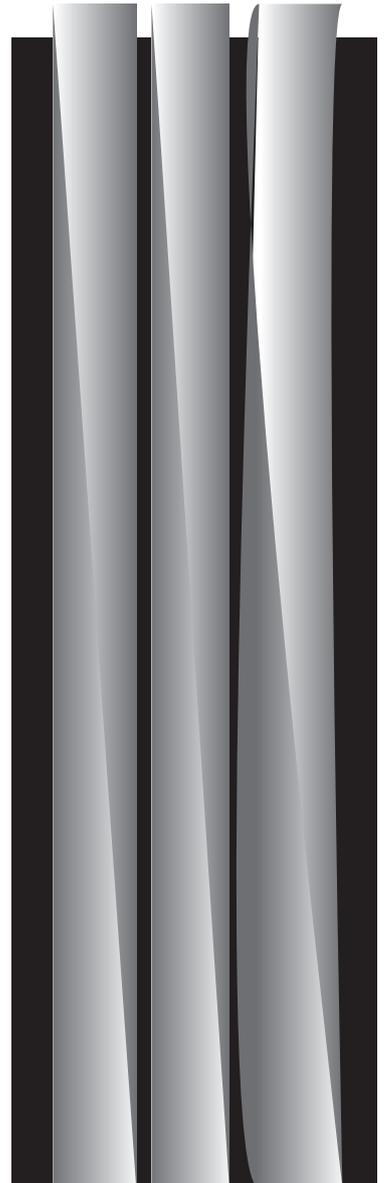
「山地の暮らし」



## 第 2 章

…… Chapter 2 ……

# 【 事 業 】



## 飯能市郷土館学芸員の仕事 - その割合の変化から -

博物館の活動には、展示、教育普及、収集保存、調査研究の4つがあります。このうち、当館の職員がこれらの活動にどのくらいの割合で従事しているかみてみましょう。

### ○館全体の活動割合

下のグラフのAは、平成20年度1年間の各職員の仕事量を100として、それぞれ担当する事業に従事する割合を出し、それを館全体で集計して活動分野別にまとめたものです。ただしこの割合はあくまで職員のイメージであって、実態を反映した数値に基づくものではありません。

これを見ると、教育普及が突出して高く、この活動が当館の中心であることがわかります。また、観客が安心して展示を見たり、事業に参加できるようにするための、運営管理も高い比率を占めています。

### ○A学芸員の仕事比率の変化から

次に、同じ平成20年度のA学芸員が担当した仕事の割合をみてみましょう(イ)。これは、実際に従事した時間を集計して出しています。

まず、教育普及が圧倒的に高い点は館全体と同様です。大きく違うのは展示、整理、運営管理ですが、これはこの年にA学芸員が、収蔵資料目録の刊行を主に担当していたからに他なりません。特別展の担当者であったら、展示の比率が極めて高い数値を示していたでしょう。

続いて、同じように集計したA学芸員の、平成12

年度における仕事の割合(ウ)と比較し\*、その力点がどのように変わったかみてみましょう。

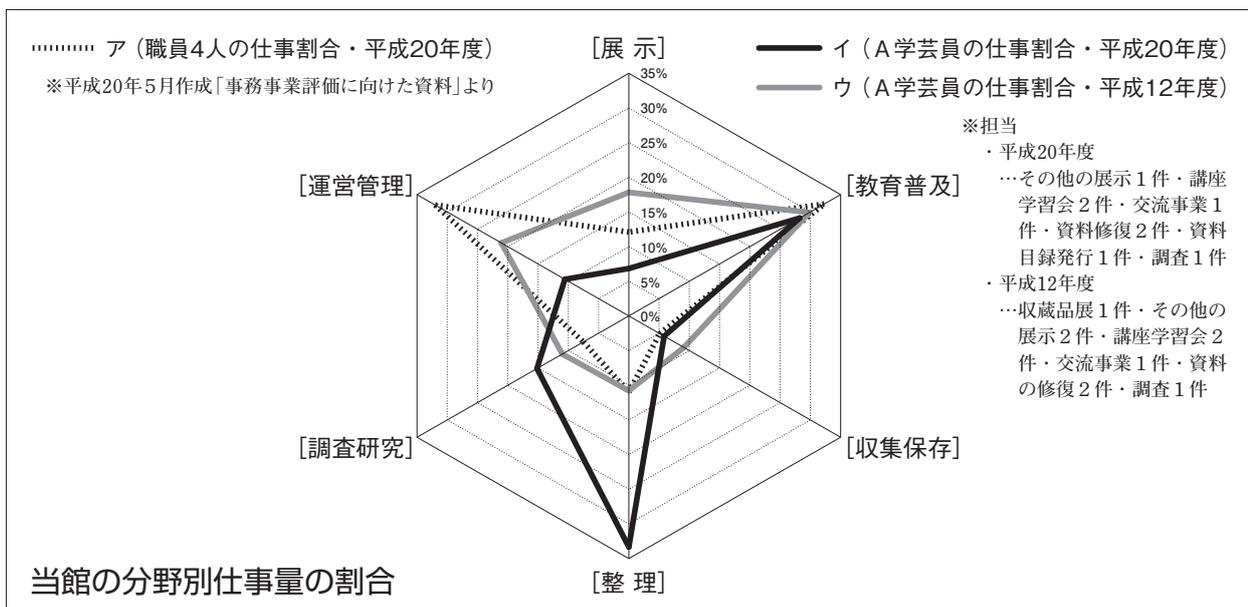
まず、8年前においても教育普及が突出して多いことが指摘できます。このことは、当館の運営が一貫して教育普及事業に重点を置いて行われていることを表しています。

また収集保存、調査研究の比率もほとんど変わっていませんが、その一方で管理と展示の比率が大きく減少し、その分整理が増えていきます。収蔵資料目録を刊行するようになったのは平成15年度からで、この8年間で資料の整理に学芸員の時間と経費を投入できるようになってきたことがわかります。

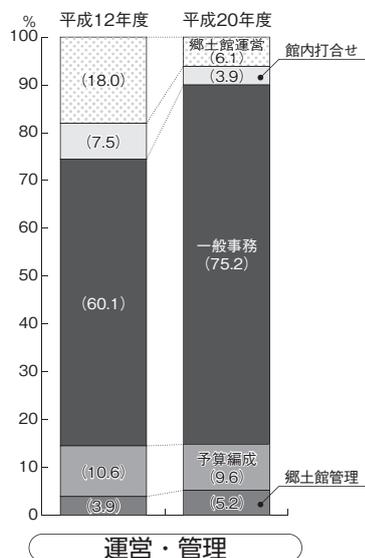
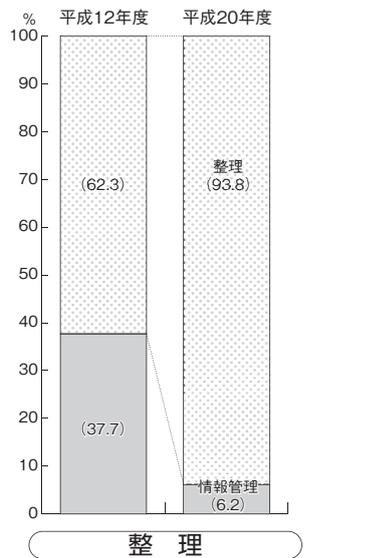
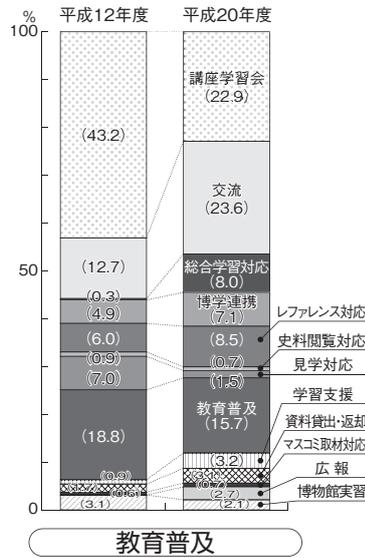
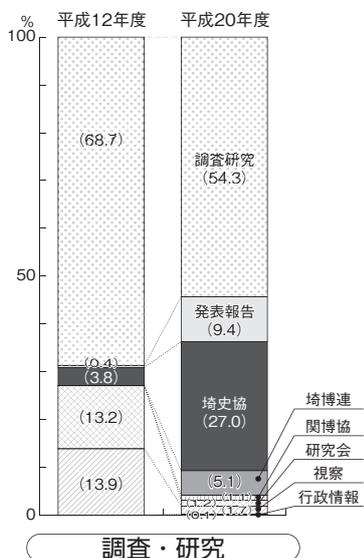
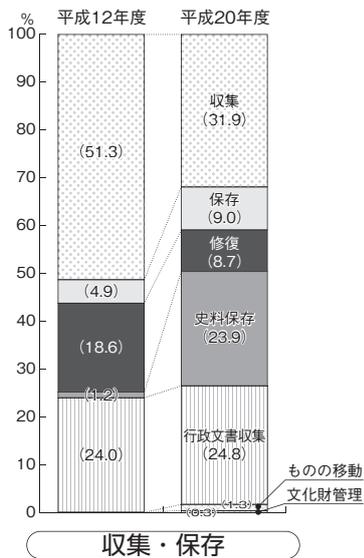
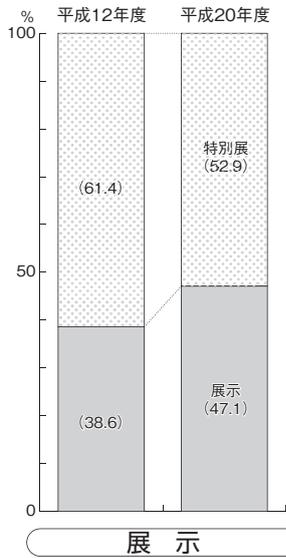
### ○A学芸員の仕事の内訳

11Pの棒グラフは各分野ごとの内訳を表したものです。教育普及における「交流」と「総合学習の対応」の増加が顕著ですが、このことは(紙幅の都合上数値は示せませんが)、Aでも同じ傾向が見て取れました。ここからは、定点撮影プロジェクトや市民学芸員といった市民参加型の活動や総合学習の導入が当館の教育普及事業のあり方を大きく変えたことがわかります。また、調査研究分野での「発表報告」の伸びは、当館がもつ地域の歴史や文化についての情報を求める市民の数が増えてきていることを示しています。

\*平成12年度のデータは館報第3号に掲載してありますが、この時とは分類を少し変えているため、若干異なっています。



## ■ A学芸員の仕事内容（内訳）（単位：％）



### ◆ 展示

- 特別展・秋の特別展の開催に関わるすべての仕事が入ります。A学芸員はこの年は担当していませんので、主担当のサブとして従事しています。
- 展示・収蔵品展や「今月の一品」など特別展以外の展示に関わるもの。

13~20  
ページ

### ◆ 教育普及

- 交流事業…市民学芸員と定点撮影プロジェクトがあります。この年は市民学芸員を担当しています。
- 講座学習会…夏休み子ども歴史教室と刀剣入門講座を担当しました。
- 教育普及…平成20年度は館報の担当にはなっていませんので、この年のほとんどは、市民のコレクションを展示する「マイ・コレ。」になります。これも平成12年度には行っていなかった事業です。
- 博学連携…ここでは、総合学習対応以外の学校との連携事業が分類されています。中心は小学3年生の見学対応ですが、そのほか社会科の出張授業なども含まれます。
- 史料閲覧対応…ほとんどが古文書や地図の閲覧申請への対応です。
- 資料貸出・返却…他の博物館や学校へ資料を貸出した場合の手続きや資料検査などです。

21~41  
ページ

### ◆ 収集・保存

- 収集…資料の寄贈や寄託に関わる調査、受領検討、手続きなどです。
- 行政文書収集…市役所で保存年限が満了し廃棄となった公文書の中から、歴史的に価値のある文書を収集する作業です。主担当ではありませんが、埼史協でその選別基準作成を目的とした専門研究会の委員になっていたので、その作業をここに加えました。
- 史料保存…旧家などにある古文書や写真などを将来にわたって受け継いでいってもらえるように、保管方法や防虫剤などについてのアドバイスなどを行っています。
- 保存…収蔵資料の点検や手入れ、収蔵庫内の温湿度管理などです。

42  
45~46  
ページ

### ◆ 整理

- 整理…当該年度は文書の整理と写真資料の整理を担当しました。
- 情報管理…当館には地域や資料についての様々な情報がありますし、また集まってきます。そうしたものを文書にしたり、カード化したりして記録する作業です。

43~45  
ページ

### ◆ 調査・研究

- 調査研究…当館における調査活動の中心は特別展開催に向けてものですが、そのほかに古文書詳細調査などを行っています。
- 埼史協、埼博連など…県内の博物館や史料保存機関との協議会に関するもの。
- 視察…他館の運営状況の視察や展示会の見学など。個人として行ったものがほとんどです。
- 研究会…個人として参加したものです。

47  
ページ

### ◆ 運営・管理

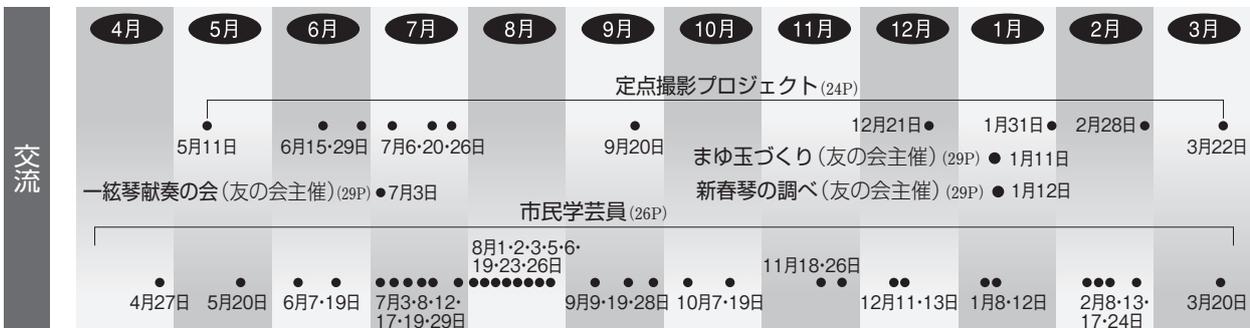
- 郷土館運営…郷土館協議会の開催や中期計画の策定など運営方針に関する事務です。
- 一般事務…市役所や他の機関との文書のやりとりや文書管理などの一行政機関としての事務です。館報3号では「雑務」としていました。
- 郷土館管理…館内の照明交換や各種機器の故障の対応などです。

7  
51~52  
ページ

# 平成20年度の事業

平成19年度中に完結予定であった名栗村史編さん事業が、諸般の事情により1年延長されることとなった。しかし、当該年度の人員配置はそれを見こして行われたため、平成17年1月1日の合併によって当該事業担当分として配置されていた常勤職員1名が減員となり、3年3ヶ月ぶりに再び4人（館長1・学芸員3）となった。民俗を専門とする学芸員の異動により、歴史・民俗・考古3分野の学芸員がそろっていた時代は、わずか2年で終了した。

秋の特別展「名栗の歴史」は、名栗村史編さん事業完結記念の事業として企画されたものであったが、結果的には、『名栗の歴史(下)』刊行前にその内容も含めて行うこととなった。また、前年度3年ぶりに育成講座を実施した市民学芸員は、新たに認定された17名を迎え総勢27名となり、人員的にも内容的にも充実して小学3年生の見学に対応できるようになった。一方でこの制度の立ち上げとともに歩んでこられた方の中にも活動を休止する方が何人か出てきて、市民との協働事業の課題が浮き彫りとなった。



収藏品展

## 郷土館は玉手箱6 商いの“ころろ” —道具と広告から—

期 間	平成20年4月27日(日)～6月1日(日)		
開館日数	30日間		
入館者数	2,275人 (1日平均75.8人)		
展示点数	51点		
総 経 費	206,081円 (入館者1人あたり90.6円)		
(内 訳)	印 刷 費 86,625	写真関係費 11,287	展示委託料 66,150
	通信運搬費 16,160	消耗品費 25,859	

### 1. 趣 旨

当館では、収蔵している資料をより多くの方々に見ていただくため、そして収蔵棚を整理し、収蔵品の状態を確認するために、テーマごとに収蔵資料を展示する収藏品展「郷土館は玉手箱」を平成14年度から毎年開催してきた。6回目となる今回は商売に関する収蔵品を展示した。

商売に関する展示としては、平成5年度に特別展で「商—飯能の広告展—」を開催しており、この時には引札を主体に看板や屋号が入った団扇・徳利などを展示した。今回は、展示内容を平成5年度の特別展と異なるものにするため、展示構成を考えるにあたっては、以下に挙げる2点に留意した。

ひとつは、製造に関係する資料が多くあるので、それらを「諸職」の枠組みで展示し、その他、店頭で使用していた台やケース・算盤・錢箱・レジスターなども合わせて構成することである。もう1点は、宣伝関係の資料として、引札のみをクローズアップするのではなく、引札・団扇・手拭を同じくらいに展示するという点である。

以上を踏まえ、飯能商人達のお客への心配り、工夫が伝わる展示を目指した。

### 2. 展示の構成

#### (1) 店先の風景

まず最初に、商いの舞台となる店先の様子を紹介するために、商店の店先を撮影した古写真を展示した。それとともに店先を飾った看板やのれん、旗などの実物資料を展示した。

#### (2) 商いのころろばかり

商人達が顧客とのつながりを大切にすることを物語る、引札・団扇・手拭などを展示した。引札・手拭は年末年始の売り出し、団扇は中元の売り出しの

際に商人が配ったものである。引札は明治時代の石版多色刷のもので、当時はいざいざ豊かな印刷物は珍しかったため、お客に大変喜ばれたらしい。手拭・団扇もデザインとして決まったものがある中で、商人が選択したデザインが時代（最も顕著なのは戦時中）を反映していたりするなど、興味深い資料と言える。

#### (3) 商いのころろえ

商品を陳列・保管した台や箱、算盤・錢箱・大福帳など、商いの基本的な道具を展示した。商品の見せ方、品質管理、売上の記録、お金の保管に関する様々な工夫—商いのころろえ—に関して、実物資料を元に解説した。

### 3. 印刷物

ポスター (A3判カラー)	300枚
パンフレット (A4判白黒2ページ)	300部



展示風景

## 4. 評価

展示資料を見て「懐かしい」と思われた方や、引札の色鮮やかさに驚かれた方がアンケートに感想を寄せられた。アンケートの自由筆記による反応をみると、おおむね好意的であり、“収蔵資料を見ていただく”という目的はある程度達成されたと思われる。

しかし今回の展示は、「商い」の全体像が見えず、“断片的”な展示であったことが否めない。つまり、展示全体を通して主張されるメッセージが、極めてわかりづらい展示であった。

これは、利用可能な資料に制限があった(収蔵品展は収蔵資料により構成される)というよりは、展

示構成の検討が不十分であったことが原因と考える。展示により伝えたいこと・伝えるべきことをしっかり固めた上で構成し、収蔵資料を用いての説明が出来ない要素については、パネルを充実させる必要があった。

テーマ設定の甘さだけでなく、展示資料の点数及びその見せ方に関しても問題があった。アンケート回答には、「もう少し(資料が)見たかった」、「まだ他にもあるはず」という意見もあり、観覧者の中には物足りなさを感じた方もいたことがうかがえる。

このように今回の展示は、所期の目的が達成できたかはいささか心許なく、全体として多くの課題を残した展示であった。

### ◆展示資料目録

★印は写真資料

No.	資料名	点数	寄贈者	資料番号
<b>(1) 店先の風景</b>				
1	「亀屋支店店先」★	1	(滝沢博行氏所蔵)	
2	「亀屋支店店先にて」★	1	(滝沢博行氏所蔵)	
3	「紙屋履物店店頭風景」★	1	(小川久雄氏所蔵)	
4	「紙屋履物店のショーウィンドウ」★	1	(小川久雄氏所蔵)	
5	「大通り商店街(吉田屋呉服店付近)」★	1	(小川久雄氏所蔵)	
6	のれん「松屋」	1	小川 近	民具No216
7	看板(軒看板「まるや」)	1	長谷部栄子	民具No4006
8	看板(掛看板「マツヤ」)	1	小川 近	民具No207
9	旗「山森屋」	1	浅見政一	民具No4291
10	看板(屋根看板「中村屋」)	1	菊池好太郎	民具No3107
11	看板(掛看板「武蔵銀行」)	1	佐野竹次郎	民具No3148
<b>(2) 商いのこころくぼり</b>				
12	引札(魚鉄)	1		広告No109
13	引札(山川小三郎)	1		広告No31
14	引札(藤田藤松)	1		広告No10
15	引札(白鳥呉服店)	1		広告No6
16	引札(麻屋六平)	1		広告No55
17	引札(喜久屋)	1		広告No5
18	引札(若松屋辨次郎)	1		広告No72
19	引札(須田商店)	1		広告No71
20	引札(市川長次郎)	1		広告No50
21	引札(大政商店)	1		広告No30
22	引札(張亀分店)	1		広告No4
23	引札(山川水車)	1		広告No2
24	引札を貼った屏風	1		
25	団扇(大黒天・夷)	1	小川都次郎	民具No542
26	団扇(下駄)	1	大矢 久子	民具No2186
27	団扇(盆踊りの婦人)	1	大矢 久子	民具No2186

No.	資料名	点数	寄贈者	資料番号
28	団扇(二ノ宮金次郎)	1	大矢 久子	民具No2186
29	団扇(水車)	1	大矢 久子	民具No2186
30	団扇(草花)	1	大矢 久子	民具No2186
31	団扇(歩哨)	1	平沼 優	民具No3654
32	団扇(歩哨)	1	平沼 優	民具No3655
33	団扇(名栗川)	1		
34	手拭(松屋呉服店・熨斗紙)	1	権藤 宏	民具No3886
35	手拭(松屋呉服店・子供たちの四季)	1	権藤 宏	民具No3886
36	手拭(松屋呉服店・1959・亥)	1	権藤 宏	民具No3883
37	手拭(松屋呉服店・マツボックリ)	1	権藤 宏	民具No3878
38	手拭(松屋呉服店・菊)	1	権藤 宏	民具No3882
39	手拭(松屋呉服店・松葉)	1	権藤 宏	民具No3881
40	手拭(麻六・打出小槌)	1	権藤 宏	民具No3879
41	手拭(土屋酒店・「ふきん」)	1	権藤 宏	民具No3890
<b>(3) 商いのこころえ</b>				
42	アイスクャンデーボックス	1	中村勝太郎	民具No3139
43	アイスクャンデーボックス	1	中村勝太郎	民具No3140
44	せんべい台	1	中村 三吉	民具No1494-1~3
45	陳列ケース	1	中村 三吉	民具No1495
46	自働金銭分類器	1	小川 久雄	民具No3986
47	銭箱	1	小川 近	民具No182
48	算盤入れ	1	小林 聡	民具No2013
49	算盤(舶来品)	1	尾島 武平	民具No2219
50	算盤(国産)	1	中村 好男	民具No3384
51	大福帳	1	中里 吉平	中里吉平家 旧No7-1583

# 名栗の歴史 — 森林とともに歩んだ文化をさぐる —

期 間	平成20年10月19日(日)～12月7日(日)		
開館日数	43日間		
入館者数	5,348人(1日平均124.4人)		
展示点数	122点		
総 経 費	1,966,111円(入館者1人あたり367.6円)		
(内 訳)	印 刷 費 729,750	写真関係費 177,334	展示委託料 274,155
	通信運搬費 339,892	消耗品費 209,265	報 償 費 125,000
	賃 金 110,715		

## 1. 趣 旨

平成17年1月1日、飯能市と合併した名栗村の歴史は森林とともに歩んできたと言っても過言ではない。森林を育みその恵みを受け産業を発展させ、独自の文化を創り出してきた。

旧名栗村ではじめられた名栗村史編さん事業は、合併後、飯能市に引き継がれ、間もなく完了を迎える。この特別展では村史編さんの過程で得られた成果をもとに、各時代の代表的な資料を展示し、森林とともに歩んできた名栗の歴史を多くの方に紹介することを目的とする。

## 2. 展示の構成

展示では、名栗村史の本編である『名栗の歴史』(上)・(下)の内容を実物資料や写真で紹介することを心がけた。展示を見ることにより、村の始まりから合併までの歴史がわかるように展示を構成した。

### I. 名栗の地形と地質

歴史の舞台となった名栗の地形と地質を写真・地形図等で概観した。

### II. 原始・古代の名栗地域

名栗地域で初めて行われた発掘調査の出土品等を展示し、人々が住み始めた頃の様子をたどった。

### III. 中世の名栗地域

市指定の木造虚空蔵菩薩座像や町田家の阿弥陀三尊画像板碑など名栗地域の代表的な信仰資料を中心に名栗の中世を探った。

### IV. 近世の上・下名栗村

村の支配の様子や文化、「山」を焼畑から炭・材木生産の場に転換していく過程などを古文書や絵図で示した。さらに幕末に上名栗から発生し関東一円に広まった「武州世直し一揆」について紹介した。

### V. 近代の名栗村

名栗村が成立してからの産業や行政、学校の変遷などを通して、近代化への歩みをたどった。さらに

官有林場下戻し運動、郡域変更運動、村有財産の統一など名栗村でおこった特徴的な事象を紹介した。

## VI. 現代の名栗村

戦後の復興から山間地域の振興の施策、飯能市との合併までの経緯を振り返った。

## 3. 印刷物

ポスター (B2判カラー)	300枚
チラシ (A4判カラー2ページ)	4,000枚
展示図録 (A4判カラー56ページ)	800部

## 4. 関連事業

### ◎歴史講座「名栗のあゆみ」

#### ①「名栗地域の板碑」

日 時	11月8日(土) 午後1時30分～3時
講 師	諸岡 勝氏(埼玉県立文書館)
会 場	当館学習研修室
参加者	19人

#### ②「名栗の近代の教育 — 学校の整備と青年団体に注目して —」

日 時	11月15日(土) 午後1時30分～3時
講 師	安藤耕己氏(吉備国際大学)
会 場	当館学習研修室
参加者	15人



展示風景

③ 「山」利用の歴史に見る名栗地域」

日時 11月22日(土) 午後1時30分～3時  
 講師 加藤衛拓氏(筑波大学)  
 会場 当館学習研修室  
 参加者 24人

◎歴史散歩「武州世直し一揆の足跡を訪ねて」

日時 11月29日(日) 午前9時～12時30分  
 講師 島田稔氏(飯能市文化財保護審議委員会委員)  
 参加者 28人

5. 評価

飯能市と名栗村との合併後、名栗地域を紹介するため、広報誌や講座、エコツアーなど各種多彩な企画が各課所で実施されてきた。今回の展示もその一連のものと言え、市民が名栗地域に対してできるだけ興味をもってもらうために企画したものである。

結果としては多くの入館者があり、旧飯能市内だけでなく、名栗地域から団体で訪れる方も多かった。特別展示室と展示ホール全体をコーナーごとにパネルで仕切り、多くの資料を展示したことで「見応え

がある」と好評だった。さらに関連事業として実施した歴史散歩は申し込み当日に定員に達してしまい、その後30人以上の申し込みがあった。名栗地域への関心の高さの現れと言えよう。

今回は「合併」という事象があったため名栗地域を取り上げたが、今後は、吾野地区や加治地区などといった地域ごとの歴史を明らかにする展示を企画し、身近な地域を再発見するための情報提供も必要であると感じた。



歴史散歩(松木観音堂)

◆展示資料目録

★は写真資料/敬称略

No.	資料名	点数	年代	所蔵者・資料番号等
<b>I 名栗地域の地形と地質</b>				
1	名栗村航空写真図	1	平成6(1994)	飯能市郷土館
<b>II 原始・古代の名栗地域</b>				
2	秋津遺跡出土土器	1	縄文中期	飯能市教育委員会
3	秋津遺跡出土石器	8	縄文中期	飯能市教育委員会
<b>III 中世の名栗地域</b>				
4	秩父神社文書★	1	元亨4(1324)	秩父神社所蔵、埼玉県立歴史と民俗の博物館提供
5	懸仏★	1		星宮神社(上名栗)
6	木造虚空蔵菩薩座像	1	室町	虚空蔵堂(下名栗)、飯能市指定文化財
7	阿弥陀三尊図像板碑	1		町田豊年家
<b>IV 近世の上・下名栗村</b>				
8	己御年貢可納割付之事	1	安永2(1773)	加藤衛拓家文書22
9	鑑札	8		町田家文書(学習院大学史料館)
10	武州高麗郡加治領下名栗村中之御縄水帳・上	1	寛文8(1668)	加藤衛拓家文書1
11	武州高麗郡加治領下名栗村中之御縄水帳・中	1	寛文8(1668)	加藤衛拓家文書2
12	武州秩父郡加治領上名栗村申縄打水帳・十四冊之内一	1	寛文8(1668)	町田家文書456(学習院大学史料館)
13	武州上名栗之内人見入山ノ図	1	延宝9(1681)	町田家文書8247(学習院大学史料館)
14	下名栗村宮之入絵図	1	元禄15(1702)	加藤衛拓家文書6
15	武州秩父郡上名栗村すみや入絵図	1	延享5(1748)	町田家文書8249(学習院大学史料館)
16	武蔵国秩父郡上名栗村絵図	1	文久1(1861)	町田家文書8268(学習院大学史料館)
17	武蔵国秩父郡下名栗村耕地絵図	1	文久2(1862)	加藤衛拓家文書105
18	相定申証文之事(山伏峠新田山の百姓請について)	1	享保20(1735)	町田家文書10472(学習院大学史料館)
19	有間売山之帳	1	文政2(1819)	豊住三芳家文書1004
20	逆川売山帳	1	文政2(1819)	豊住三芳家文書1005
21	有間谷絵図	1		加藤衛拓家文書1392
22	奉納俳額	1	嘉永6(1853)	諏訪神社(上名栗)
23	孤山堂撰ほか句合寄書(絹本)	1	文久4(1864)	町田家文書15292(学習院大学史料館)
24	大般若経	5		柏林寺(上名栗)
25	大般若経	4箱	弘化3・4(1846・7)	楞嚴寺(下名栗)
26	変事出来三付心得覚書	1	慶応2(1866)	平沼宏之家文書242
27	施金墨書文書	1	慶応2(1866)	町田家文書7248(学習院大学史料館)
<b>V 近代の名栗村</b>				
28	第四大区九小区御改以後村々役人名姓書上	1	明治5(1872)	町田家文書 近代3-1(学習院大学史料館)
29	戸長選挙投票御届	1	明治13(1880)	町田家文書 近代②-17(学習院大学史料館)
30	秩父郡上名栗村会規則	1	明治14(1881)	町田家文書 近代②-8(学習院大学史料館)
31	村長当選三付事由上申辞職願	1	明治22(1889)	町田家文書 近代②-19(学習院大学史料館)
32	埼玉県秩父郡名栗村区会条例	1	明治22(1889)	小澤高司家文書483
33	組替議定書	1	明治3(1870)	町田家文書1821(学習院大学史料館)
34	明治期の村役場と吏員★	1		島田稔家写真9 8
35	埼玉県武蔵国秩父郡名栗村全図	1	明治後半	加藤衛拓家文書568
36	地券之証(控)	1	明治6(1873)	町田家文書 旧4535(学習院大学史料館)
37	地券	1	明治13(1880)	加藤衛拓家文書185
38	第八番字浅海戸 [地籍図]	1		町田昭好家文書74

No	資料名	点数	年代	所蔵者・資料番号等
39	下名栗村耕宅地々価並山林其他一筆限取調★	1	明治12(1879)	小澤高司家文書144
40	宜有秣場下戻記念碑建立記念★	1	大正11(1922)	小澤高司家写真13
41	秩父郡名栗村明治43年8月10日水害山林崩壊略図	1	明治43(1910)	島田稔家文書137
42	甲南智徳会第一部会報臨時増刊「大洪水記念号」	1	明治43(1910)	加藤衛拡家文書514
43	大喜橋改築ニ付寄附名簿	1	大正13(1924)	楞嚴寺文書18
44	大喜橋工事人足帳	1	大正13(1924)	楞嚴寺文書22
45	名栗川橋開通式受附	1	大正13(1924)	楞嚴寺文書41
46	大喜橋★	1	大正初期	関根安造家写真4
47	名栗川橋工事風景★	2	大正13(1924)	小澤高司家写真15・16
48	名栗川橋開通式記念★	1	大正13(1924)	小澤高司家写真1
49	交詢会正員之証	1	明治30(1897)	豊住三芳家文書59
50	交詢・同窓連合会規約	1	明治30(1897)	豊住三芳家文書1386
51	甲南智徳会第一部会報 第1号	1	明治43(1910)	加藤衛拡家文書506
52	甲南智徳会第二・第三部会報 第2号	1	明治43(1910)	加藤衛拡家文書508
53	甲南智徳会第二部会記録	1	明治37(1904)	町田晋家文書97
54	林業講習会修了証書	1	大正4(1915)	岡部とよ子家文書132
55	農産物品評会賞状	1	大正4(1915)	岡部とよ子家文書138
56	征露記念林加入株之証	1	明治38(1905)	加藤衛拡家文書401
57	日露戦役記念林株券	1	大正8(1919)	楨田むづみ家文書379
58	日露戦役記念林決算簿	1	大正8(1919)	楨田むづみ家文書387
59	改元記念林規約	1	大正2(1913)	楨田むづみ家文書216
60	名栗村青年団報 創刊号	1	昭和3(1928)	町田昇家文書77
61	名栗村青年団報 第2号	1	昭和3(1928)	町田晋家文書23
62	甲南智徳会第一部会運動会記念★	1		加藤衛拡家写真28
63	神能領徳碑建立記念★	1	昭和6(1931)	加藤衛拡家写真29
64	木炭事件(荷受人などの援護を受けて木炭の搬出)★	1	大正8(1919)	小澤高司家写真11
65	郡域変更貴族院可決記念★	1	大正10(1921)	楨田むづみ家写真5
66	郡域復旧記念碑運搬★	1	大正11(1922)	楨田むづみ家写真6
67	郡域復旧記念碑除幕式記念★	1	大正11(1922)	楨田むづみ家写真2
68	郡域復旧記念碑拓本(複製)	1	大正11(1922)	小澤高司家文書1124
69	統一記念碑除幕式にて村長ほか記念★	1	昭和11(1936)	島田稔家写真73
70	統一記念碑除幕式に集まった人々★	1	昭和11(1936)	名栗村写真4
71	統一記念碑除幕式での余興★	2	昭和11(1936)	名栗村写真7・12
72	小学校制人下調	1	明治7(1874)	町田家文書 近代④-12(学習院大学史料館)
73	上名栗小学校開校御届	1	明治7(1874)	町田家文書 近代④-13(学習院大学史料館)
74	上名栗学校略図	1		町田家文書 旧1057(学習院大学史料館)
75	上名栗学校看板	1		飯能市郷土館
76	名栗川学校平面図	1		名栗村教育委員会文書1001
77	名栗川学校設置願	1	明治15(1882)	小澤高司家文書256
78	下名栗学校卒業証書	1	明治11(1878)	豊住三芳家文書1187
79	下名栗尋常小学校基本金貸付原簿	1	明治20(1887)	加藤衛拡家文書228
80	下名栗尋常小学校基本金取扱規約	1	明治27(1894)	小澤高司家文書485
81	上名栗第二尋常小学校新築校地及校舎図面	1		浅見欽一郎家文書755
82	行程日誌 [上名栗第一尋常高等小学校新築に付]	1	大正11(1922)	平沼宏之家文書856
83	上名栗第一尋常高等小学校問題	1	大正13(1924)	加藤衛拡家文書779
84	上名栗第一尋常高等小学校(校地移転派)新築校舎設計図(複製)	2		平沼宏之家文書1111
85	上名栗第一尋常高等小学校高等科卒業記念★	1	大正6(1917)	町田英二家写真21
86	正覚寺での上名栗第二尋常小学校卒業記念★	1	大正5(1916)	町田英二家写真67
87	新築された上名栗第二尋常小学校★	1	大正9(1920)	島田稔家写真92
88	上名栗第一尋常高等小学校(現状維持派)新築校舎上棟記念★	1	大正13(1924)	名栗村教育委員会写真12
89	上名栗第一尋常高等小学校(校地移転派)新築校舎上棟記念★	1	大正13(1924)	石井恵一家写真3
90	上名栗第一尋常高等小学校(現状維持派)新築校舎竣工式★	1	大正13(1924)	名栗村教育委員会写真2
91	上名栗第一尋常高等小学校(校地移転派)新築校舎★	1		名栗村写真17
92	名栗東国民学校の教職員★	1	昭和19(1944)	名栗村教育委員会写真21
93	国民精神総動員強調週間ちらし	1	昭和13(1938)	名栗村役場文書382
94	マッチ回数購入券	1	昭和17(1942)	石井恵一家文書52
95	衣料切符	1	昭和17(1942)	石井恵一家文書52
96	支那事変国庫債券	1	昭和16(1941)	楨田むづみ家文書789
97	戦時報国債券	1	昭和17(1942)	岡部とよ子家文書641
98	大日本国防婦人会名栗分会正副班長記念★	1		町田耕三家写真1
99	名栗警防団★	1		加藤樹家写真89
100	龍泉寺の鐘の供出★	1	昭和18(1943)頃	有馬壽雄家写真7
101	名栗東国民学校での防空演習★	1	昭和18(1943)頃	有馬壽雄家写真5
102	出征兵士の見送り★	1		柏木家写真1
103	龍泉寺本堂にて千代田小学校疎開児童記念★	1	昭和19(1944)	有馬壽雄家写真25
104	龍泉寺での疎開児童の生活★	6	昭和19(1944)	有馬壽雄家写真12・14～16・19・20
<b>Ⅵ現代の名栗村</b>				
105	農地の買取令書	1	昭和24(1949)	楨田むづみ家文書861
106	名栗中学校生徒記念★	1	昭和25(1950)	島田稔家写真140
107	新築移転した名栗中学校★	1	昭和35(1960)	島田稔家写真96
108	13・14区付近の山林★	1	昭和30代	島田稔家写真37
109	有間川に架かるソリ橋★	1	昭和22(1947)頃	町田平吉家写真10
110	架線による木材搬出★	1	昭和30代	島田稔家写真28
111	役場庁舎★	1	昭和30(1955)頃	名栗村教育委員会写真
112	有間ダム模型	1		飯能市郷土館(名栗小学校寄贈)
113	有間ダム建設風景★	6	昭和50年代	矢島英一撮影
114	名栗東小学校新築記念★	1	昭和32(1957)	島田稔家写真198
115	新築直後の名栗西小学校★	1	昭和36(1961)	加藤樹家写真79
116	建設中の名栗中央小学校★	1	昭和41(1966)頃	名栗村教育委員会写真
117	名栗村診療所★	1	昭和25(1950)	島田稔家写真196
118	名栗幼稚園★	1	昭和44(1969)	名栗村教育委員会写真
119	飯能市名栗村合併研究会★	1	平成14(2002)	飯能市役所広報情報室提供
120	飯能市名栗村合併協議会設置★	1	平成15(2003)	飯能市役所広報情報室提供
121	飯能市名栗村合併協定調印式★	1	平成16(2004)	飯能市役所広報情報室提供
122	名栗村閉村式★	1	平成16(2004)	飯能市役所広報情報室提供

## その他の展示

当館では、収藏品展や特別展のほかにも、文化財の普及啓発や収藏品の紹介などを目的として、いろいろな展示をおこなっている。ここでは、それらを紹介する。

春一番 お宝拝見！

### 新収藏品展

期 間 平成20年3月30日(日)～4月20日(日)

開館日数 19日間 展示点数 171点

入館者数 1,951人 (1日平均102.7人)

#### 1. 趣 旨

当館の収藏品は、その多くが市民からの寄贈によって成り立っている。資料を寄贈していただいた方を顕彰するとともに、最新の収藏品を市民に公開するため、当館では平成13年度より「年度収藏品展」を開催してきた。今回展示するのは、平成19年度に寄贈を受けたものである。

しかし、スペースの関係から寄贈資料すべてを展示することはできないので、例年通り寄贈者1人につき最低1点は展示できるように資料を選定した。なお、このすぐ後に実施する収藏品展との違いを明



展示風景 (展示ホール)

確にするため、今年度から名称を「新収藏品展」と改めることとした。

#### 2. 内 容

平成19年4月から20年3月までの間に当館の収藏品となった古文書や古写真、民具、絵画を展示ホールにて公開した。絵画はこの年の2月に逝去された小島喜八郎氏が描いた市内各所の風景画11点である。

### 第3回

### 「マイ・コレ。」(マイコレクション展)

期 間 平成20年6月15日(日)～7月13日(日)

開館日数 25日間 展示点数 344点

入館者数 1,753人 (1日平均70.1人)

#### 1. 趣 旨

「マイ・コレ。」は、市民のコレクションを広く紹介するもので、コレクションのおもしろさやその意義を伝えると共に、新たな入館者層の獲得と特別展示室を有効利用することを目的としている。平成19年度より開始された事業で、今回が3回目となる。

#### 2. 内 容

今回は、「地図・絵図に見る飯能とその周辺」(コレクター：大野哲夫氏)、「江戸の美学 一千社札」(コレクター：桜井実樹氏)の2件のコレクションを紹介した。

展示資料は、前者が飯能周辺の地図や鉄道関係図、江戸時代の切絵図など27点、後者が大正から昭和



展示風景 (地図・絵図に見る飯能とその周辺)

一ケタの神田「睦会」に属していた人が交換して得た千社札317点である。

#### 3. 関連事業

◎コレクター自身による展示解説

日 時 ①6月15日(日) 大野哲夫氏

②6月22日(日) 桜井実樹氏

いずれも午後2時～

参加者 ①10人 ②15人

小学3年生見学対応展示

## むかしのくらしー民家の台所再現ー

期 間 平成20年1月7日(水)～2月8日(日)  
開館日数 29日間 展示点数 53点  
入館者数 3,305人 (1日平均114.0人)

### 1. 趣 旨

小学校では、3年生になると人々の暮らしの移り変わりについて学ぶことになっていて、社会科副読本「はんのうし」でも当館の見学が組み込まれている。この展示は、この単元の学習に対応するために毎年開催しているものである。

近年、博物館が所蔵している昔の道具を使った回想法が試みられているが、この展示が高齢者の方々の憩いの場となるよう、一昨年度より市内や近隣に所在する高齢者の介護施設にも案内を行っている。昔の民家を模した空間を再現する展示そのものは平成14年度から行っているものである。

### 2. 内 容

特別展示室内に農家のカッチと土間の様子を再現した。カッチには囲炉裏を作って周囲に箱膳や茶箆、筒などを置いた。また土間にはかまど、流し場を設けて関連する道具を展示するとともに、壁面を使って農具などを掛けた。



「郷土館で昔話を聞こう」

また、このスペースを利用して日本の昔話を聞く関連事業を開催した。

### 3. 関連事業

#### ◎「郷土館で昔話を聞こう」

日 時 1月24日(土) 午後2時～午後3時  
講 師 お話の会「なんじゃもんじゃ」会員  
会 場 「むかしのくらし」展示会場  
参加者 22人

#### ◎火のし・炭火アイロン／石臼体験

日 時 2月8日(日) 午前10時～午後3時  
指導者 当館市民学芸員  
会 場 当館特別展示室・休憩コーナー  
参加者 92人

## 第4回

## 「マイ・コレ。」(マイコレクション展)

期 間 平成21年2月22日(日)～3月22日(日)  
開館日数 25日間 展示点数 276点  
入館者数 2,929人 (1日平均117.2人)

### 1. 趣 旨

平成19年度より開始した「マイ・コレ。」では、1回で2つのコレクションを紹介してきたが、4回目となる今回は、資料の小さなコレクションがあるので3つ紹介することにした。なお、この展示はミニ展「ひなまつり」と並行して開催された。

### 2. 内 容

今回紹介するコレクションは、「飯能・身近な自然探検」(コレクター：原田恵子氏)、「昭和40～60年代のラジオ」(コレクター：岸野茂氏)及び「イベント記念のタバコの箱」(コレクター：原島康夫氏)である。

展示資料は、原田氏のコレクションが植物や動物の標本など118点、岸野氏が様々なタイプの日本製



展示解説「昭和40～60年代のラジオ」

のラジオ86点、原島氏が高度成長期に期間限定で発売された記念タバコのパッケージ72点である。

### 3. 関連事業

#### ◎コレクター自身による展示解説

日 時 ①2月22日(日) 午後2時から 原田恵子氏  
②3月1日(日) 午後2時から 原島康夫氏  
③同上 午後2時30分から 岸野茂氏  
参加者 ①18人 ②15人 ③13人

## ミニ展示

# 「ひなまつり」

期 間 平成21年2月25日(水)～3月3日(火)

開館日数 7日間 展示点数 20点

入館者数 1,427人 (1日平均203.9人)

### 1. 趣 旨

商店街の活性化を主な目的として、2月20日から3月3日まで第4回「雛飾りお宝展 in 飯能」が開催された。これは「森と街をむすぶ木馬をつくる会」が主催となり、商店街の店先や民家の座敷などに雛飾りをしてもらい、観光客や市民に雛飾りと街の散策を楽しんでもらう企画である。参加した商店と民家は102ヶ所にのぼった。

当館では収蔵している雛人形1点を、メイン会場となった「店蔵・絹甚」に貸し出したほか、館内では展示ホールを中心に雛人形を展示した。

### 2. 内 容

展示ホールには、御殿雛1組と段飾り2組、親王



展示風景

飾りの雛人形11点のほか、桃の節句の古写真2点を展示した。展示は市民学芸員と共に行った。

期間中には、店先などに展示された雛人形を見て歩く人々の姿が多く見られ、当館においても1日の平均入館者数は200人を超えた。またこのイベントに合わせてエコツアーが行われ、当館でも学芸員がひな祭りについての説明を行った。

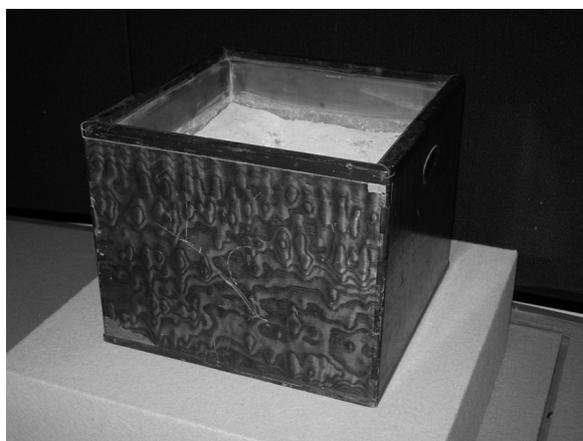
## 今月の一品

### 1. 趣 旨

当館では、その時期にふさわしい資料を展示することによって季節感を加えるとともに、収蔵資料の活用を図ることを目的として、月替わりに収蔵資料を展示している。場所は、入口右側の展示台の上の、縦、横、高さともに60cmの小さなケース内で、平成18年6月から実施しているものである。

### 2. 展示資料

下記一覧表のとおり。



11月の展示「火鉢」

月	資料名	資料番号等	月	資料名	資料番号等
4月	布目瓦	(飯能第一小学校寄贈)	10月	虫籠	No.3531
5月	五月人形と引札	No.3627・広告No.18	11月	火鉢	No.55
6月	笠	No.2524	12月	硯箱	No.177
7月	ヤス・ハコメガネ	No.1479・2098	1月	湯タンポ	No.3100・4417
8月	おふろおもちゃ	No.3940-1~3	2月	雛人形	No.2202-1
9月	鐘	No.3134	3月	筆箱・ノート	No.2889・2909-1・2

夏休み子ども歴史教室

## 「探検！絹葺」

この事業は、前年度対象者を低学年と高学年に分け別々のプログラムで実施したが、当年度もこの枠組みを維持して行った。

日 時 平成20年 8月 5日(火)  
午前 9時30分～12時

対 象 小学 4年生～ 6年生

会 場 当館学習研修室・店蔵絹葺  
(市指定文化財)

参加者数 11人

講 師 熊澤孝之氏  
(生涯学習課文化財担当職員)

### 1. 趣 旨

市指定文化財「店蔵絹葺」は、この年の4月に修理復元工事が完成し、市民に公開されるようになった。この建物には、蒸し暑い夏を乗りきるための工夫や、商いの場としての機能を重視した間取りなど、昔の人の知恵が数多く含まれている。クイズを通してそれを実見・体験し、日本の伝統的建造物の良さを子どもたちに理解してもらうことを目的とした。



「探検！絹葺」

### 2. 内 容

参加者には昔の建物の特徴がわかるように、自分の家の柱や天井、壁などについてよく見てもらうように事前に葉書で呼びかけをした。

当日はワークシートを配布し、写真が掲載されている、あるいは昔の知恵が込められている部分があるかを探してもらい、その場所を絹葺内部の地図に記入すること、そして全部で4つある部屋の使い方を考えてもらった。最後に、講師に解説してもらいながらその答え合わせを兼ねて全員で建物の中を見て回った。その時に、一緒に揚戸を下ろしてみるといった体験的な要素も加えた。

夏休み子ども歴史教室

## 「七夕飾りとゆでまんじゅう作り」

日 時 平成20年 8月 6日(水)  
午前 9時30分～12時

対 象 小学 1年生～ 4年生

会 場 当館学習研修室

参加者数 28人

講 師 内沼須美氏・内沼春江氏・小熊絢子氏・高瀬恵子氏

### 1. 趣 旨

年中行事は元々その地域の農事暦に深く関わっているが、近年は農業に従事している人も少なくなり、その形骸化が進んでいる。こうした行事の意味を知ることが本市域におけるかつての生活を理解することにつながる。

また低学年向けのプログラムには、ものを作る、



「七夕飾りとゆでまんじゅう作り」

体験するという要素が不可欠である。そこで、夏休み期間中に行われる七夕をとりあげ、本市域ではつきものであったゆでまんじゅうを作り、楽しみながら昔の暮らしを知ってもらうきっかけを提供しようとするものである。

## 2. 内 容

七夕行事について説明したあと、5つの班ごとに折紙で飾りものを作ったり短冊に願いごとを書いて、それを当館入口外にある笹に取り付けた。

それから学習研修室に戻り、講師よりゆでまんじゅうの作り方を説明してもらった。そして班ごとに

うどん粉をこね、あんこを入れてまんじゅうの形に整えるところまでを体験した。できたまんじゅうをゆで、講師が差し入れてくれたすいかと一緒にそれを食べた。最後に外の七夕飾りのところで記念撮影をして解散した。

## 夏休みこどもクラブ

日 時 平成20年8月1日(金)～25日(月)  
午前9時～午後5時  
対 象 市内の小学生  
会 場 当館常設展示室  
参加者数 のべ281人

### 1. 趣 旨

夏休み中の子どもの居場所として社会教育施設がそれぞれの特性を活かして連携することで、より有意義な夏休みを過ごしてもらうことを目的とするもので、当館、中央公民館、子ども図書館が平成16年度より共催で行っている。本事業を通して子どもたちの健全育成や地域の教育力の向上に社会教育施設が積極的に寄与するとともに、日ごろ疎遠になりがちな社会教育施設に気軽に親しんでもらう契機になることも意図した。また、公民館・図書館・博物館が隣接している地の利を活かし、より連携を深めて事業展開していくきっかけとするものである。

### 2. 内 容

3館共通のスタンプカードを発行し、期間中に当館や中央公民館、こども図書館の各会場で定められ



「竹の水鉄砲で遊ぼう」

たことに参加するとそれにスタンプが1つおさされる。20個集めると記念品がもらえるという特典があり、子どもたちに喜ばれた。

当館では、常設展示室内を日替わりで移動する埼玉県のマスコット「コバトン」を探してもらおう。コバトンは毎日、1文字だけ発しており、それを記録用紙の日付のところに記していくと最後には1つのメッセージが現れるようにした。また、8月1日から3日にかけては「竹の水鉄砲で遊ぼう」というコーナーを当館入口手前に設置し、市民学芸員が水鉄砲を作る指導をし、それで遊んでもらった(参加者のべ88人)。

# 日本刀入門講座

**日 時** 平成20年10月26日(日)・11月9日(日)・23日(日)  
いずれも午後2時から4時まで

**対 象** 一般

**会 場** 当館学習研修室・小沢寿久刀匠鍛冶場(11月9日のみ)

**参加者数** のべ67人

**講 師** 大野正氏(西武蔵刀剣会会長)・小沢寿久氏(刀匠)・飯能刀剣会の皆さん

## 1. 趣 旨

当館では、小澤正壽刀匠没後5年目にあたる平成8年度秋に特別展「飯能の刀匠」を開催した。この展示会では展示図録が期間中に完売し、刀剣製作工程実演会にも多くの来館者があるなど好評であった。本市域には正壽師の後を継いだ寿久師が刀匠として活躍されていることもあり、美術刀剣としての日本刀の美しさを市民に知ってもらうことも当館の重要な使命の1つであるとの認識から、平成11年に文化庁より接收刀剣類10振の譲与を受けてその研磨を行い、平成19年度春の収蔵品展でそれらを公開したところである。

ところで、日本刀の保存については、鑑賞眼を身につける機会が愛刀家たちのサークル(刀剣会)に限られていることに加え、手入れの難しさなども相

まって、その美を理解し守っていこうとする人たちの裾野がなかなか広がっていかないという課題が存在している。

そこで、刀剣会に依らなくても日本刀鑑賞のポイントや取扱い方についてわかりやすく学ぶ場を提供することによって、美術品としての日本刀を理解し、それを文化財として保存していく意識を醸成することを目的とする。

## 2. 内 容

日本刀の歴史や製作工程、鑑賞のポイント及び取り扱い方法などをやさしく解説した。

### 第1回(10/26)「日本刀の歴史」

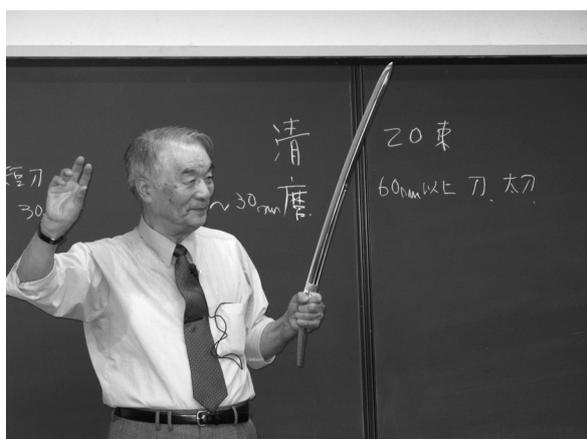
太刀、刀、脇指、短刀の違いや日本刀の歴史、鑑賞のポイントなどについて、大野正氏に実物を手にとりながら説明してもらった。

### 第2回(11/9)「日本刀のできるまで」

小沢寿久刀匠の鍛冶場を訪ね、日本刀の製作工程について説明を受けたあと、積みわかしから鍛錬の様子を実際に見学した。

### 第3回(11/23)「日本刀の取り扱い方」

刀の鞘の抜いて油を拭い、打粉を使って油を完全に除去して鑑賞したのち、油を引いて鞘に収めるまでを、模造刀を用いて参加者に体験してもらった。



第1回「日本刀の歴史」



第2回「日本刀のできるまで」

行政運営において、市民との協働はもはや不可欠のものとなってきている。博物館でも市民との協働や連携による事業の取組みが多く見られるようになった。

博物館における市民参加活動を一般的に「交流」活動と呼んでいるが、当館においては、定点撮影プロジェクトと市民学芸員がそれにあたる。当館と市民との双方向性の情報交換と交流を目的とするこれらの事業は、当館の活動の特色の1つともいえるものであり、力を入れて取り組んでいるところである。

## 定点撮影プロジェクト

### 1. 概 要

定点撮影プロジェクトは、市民自らが刻々と移り変わっていく「今」の時代を写真で記録し後世に残していくことを目的として、平成10年度に開始した事業である。

参加者は各地域で決められた地点を定期的に撮影する（地点撮影）。撮影地点は通り・駅前・交差点など昔から写真に撮られているところや変化の激しいところ、橋や学校などの地域の象徴的な建物などである。また、これとは別に、日常的な生活を写真で残すために毎年参加者で設定したテーマに沿った撮影をおこなっている（テーマ別撮影）。

撮影した写真は撮影者がフィルム台帳に内容を記録するとともに、地点撮影の場合には撮影場所、撮影目標、撮影の際の注意点などをまとめた「撮影地点カード」を作成している。地点撮影もテーマ別撮影も、撮影対象が存在する地域への興味や理解、あるいはそこでの生活体験がないと、変化の本質を捉えた撮影ができないものである。この10年間に蓄積されたフィルムは約320本におよび、地域の変化を示す良好な資料として当館に蓄積された。

また、撮影した成果を紹介するための写真展を毎年開催している。この写真展の展示作業や解説文の執筆などは参加者が主体的におこなっており、現在では当館職員がそれをサポートする程度で完成するまでに至っている。この展示は、他の市民に対しても写真記録の必要性を伝え身近な歴史を考えるきっかけを与えるものとなっている。

### 2. 活動の概要

今年度の地点撮影は、4月5日から5月7日の間に各自で実施した。また、この年の写真展では、スポーツ・運動をテーマに、その古写真とそれが写された場所の現在の様子を比較することとしたため、これに該当する現在の風景を分担して撮影した。

これらの成果は「はんのう運動写真帖」として展示された。

### 3. 定点撮影プロジェクト写真展

第10回

## 「はんのう運動写真帖 —古写真に見るスポーツと今の風景—」

期 間	平成20年7月27日(日)～8月31日(日)
開館日数	31日間
入館者数	2,492人 (1日平均80.4人)
展示点数	写真78枚 (42地点)

#### 1. 開催趣旨

平成20年度は、本市がインターハイのホッケー開催地となったことにちなみ、これを記念して当館で所蔵する古写真を中心に、運動・スポーツに関係するものを選び、紹介する。同時に会員が古写真に写された現在の様子を撮影し、今と昔の風景が対比できるように展示することとした。この機会を通して、入館者に風景の違い、時代の変化を感じ取っていただき、地域に関心をもっていただくことを期待

した。なお、今回は昨年度からの変化に乏しいため、地点撮影の展示は実施しなかった。

## 2. 展示構成

全体を、第22回国体、奥武蔵駅伝、野球、運動会、その他の運動の5つに分けて、古写真とその場所の現在の様子を撮影した写真と対比させて展示した。

## 3. その他

展示した写真のうち、67枚（34地点）の写真を10月1日（水）から10月31日（金）の期間、西武飯能ペペ4階のペペホール前でも展示した。これは、西武飯能ペペからの依頼により昨年度から実施しているもので、駅ビルでの展示は、当館に足を運ぶ機会の少ない若い層の方々に当館の存在を広く知ってもらう効果があった。また、地元企業との連携のあり方を探る試みでもあった。



展示風景

## 活動一覧

回	月日	曜日	種類	内容	参加人数
1	5/11	日	打合会	写真展の展示写真選定など	10
2	6/15	日	打合会	写真展のタイトル検討、展示写真の選定など	9
3	6/29	日	展示準備	解説文原稿の検討	5
4	7/6	日	展示準備	解説文原稿の確認、展示構成の基本方針検討	8
5	7/20	日	展示準備	解説パネル、写真パネルの作成、展示手法検討	6
6	7/26	土	展示準備	展示設営	7
7	9/20	土	打合会	写真展の反省点についてなど	6
8	12/21	日	打合会	来年度の展示テーマ検討	6
9	1/31	土	打合会	次年度の展示テーマ検討など	6
10	2/28	土	打合会	次年度の写真展の展示写真選定など	10
11	3/22	日	打合会	次年度写真展の開催時期、展示写真検討など	8

合計 81

# 市民学芸員

## 1. これまでの経緯

当館における市民学芸員とは「市民に向けた学習機会を提供するシステム」であり、「本務学芸員を補完する立場」で「博物館側の情報発信機能と受け手の市民の間をつなぐ伝達媒体としてのサポーター」であると位置づけられている（当館『研究紀要』第1号）。現在では、何らかのボランティア組織をもつ博物館が増えているが、その多くは基本的に歴史や自然など専門分野をベースとした活動になっている。しかし、当館の場合は教育普及や整理など事業別にその都度養成を行い、市民学芸員の認定をしている点の特徴である。

まず第Ⅰ期市民学芸員の養成は、平成12年1月の「特別展企画運営参加型」で、21人が参加した。講座の受講者は、同年秋に予定されていた特別展「飯能、戦後の暮らし」の企画段階から参加し、体験教室や展示解説などの運営にも携わった。

第Ⅱ期は、平成12年3月の「博学連携事業参加型」で、30人の参加を得て同年7月の夏休み親子歴史教室及び翌年1・2月の小学3年生見学対応に従事した。その結果、当館が提供する小学3年生の「むかしの暮らし」の学習プログラムは、質、量ともに飛躍的に充実し、それ以後の小学3年生の見学対応はこの体制で行われている。

第Ⅰ期、Ⅱ期と教育普及分野での養成であったが、第Ⅲ期は西川林業の道具の基礎調査を行うもので、平成16年2月から養成が開始された（「民俗調査参加型」）。この調査の目標は、当館にとって長年の懸案であった西川材の生産に関わる道具を県指定文化財とすることにあり、新たに2人が市民学芸員として認定された。この養成講座には、Ⅰ・Ⅱ期の市民学芸員も参加したため一体的に活動することとなり、結果的には「民俗調査参加型」から参加した市民学芸員も小学3年生見学の対応にも従事してもらうことになった。

さらに、平成19年度には博学連携事業参加型としては2度目、通算ではⅣ期となる市民学芸員の養成講座を実施し、17人が新たに認定された。新たな市民学芸員は、その年の小学3年生の見学から対応に加わってもらい、博学連携事業は新たな力を得て一層充実した。

## 2. 活動の概要

平成19年度に第Ⅳ期市民学芸員の養成を行った結果、今年度当初の市民学芸員の人数は合計で30人となった。そこで、新しく加わる人たちと以前からのメンバーとの交流を深め、動機付けを高めるため、新たに部会活動を行っていくこととした。

当館では、子どもを対象とした教育普及事業の展開が課題となっているので、部会はこの解決に向けての事業を検討するもの(A)と、小学3年生の見学対応プログラムを充実させるためのもの2つ(B・C)とした。それは以下のとおりである。

- A. 休日の体験学習プログラム
- B. 昔の暮らし体験・まちなか探検ツアー
- C. 常設展示室における体験学習プログラム

各部会活動への参加は自由で、各部会には本務学芸員が一人ずつ担当として関わることとした。



部会打合せ風景

## 活動一覧(全体)

回	活動日	曜日	時間	テーマ	講師・担当	内 容	参加人数
1	4/27	日	9:30	4月例会	尾崎	平成20年度の活動内容、部会活動について	21
2	5/20	火	9:30	5月例会	尾崎	館外研修会、部会活動について	13
3	6/7	土	8:00	館外研修会	館長・尾崎	八王子市郷土資料館・バルテノン多摩見学	17
4	6/19	木	13:30	6月例会・研修会	宮本八恵子氏ほか	講義「小槻藤次郎家資料と飯能・所沢の織物」 ／部会協議	18
5	7/19	土	13:30	7月例会・研修会	尾崎泰弘 (当館学芸員)	講義「飯能縄市の成り立ちと見世空間」 ／部会活動報告	15
6	8/1	金	9:00	夏休み子どもクラブ運営	村上	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営	7
7	8/2	土	9:00	夏休み子どもクラブ運営	村上	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営	6
8	8/3	日	9:00	夏休み子どもクラブ運営	村上	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営	4
9	8/5	火	9:30	夏休み子ども歴史教室運営	尾崎	小学4年～6年生対象の「探検！絹甚」の 運営補助	5
10	8/6	水	9:30	夏休み子ども歴史教室運営	尾崎	小学1～4年生対象の「七夕飾りとゆでまんじゅうづくり」運営補助	1
11	8/26	火	13:30	8月例会・研修会	村上達哉 (当館学芸員)	講義「伝説から探る地域の歴史について」 ／部会活動報告	17
12	9/19	金	13:30	9月例会・研修会	富元久美子 (生涯学習課文化財担当)	講義「飯能焼原窯の研究」／部会活動報告	10
13	10/19	日	9:30	10月例会・研修会	柳戸信吾 (当館事業担当リーダー)	特別展「名栗の歴史」展示解説／小学3年生 見学対応について	18
14	11/18	火	13:30	11月例会	尾崎・村上	小学3年生見学対応準備（見学内容、プログラム 確認など）、部会活動報告	12
15	12/11	木	9:00	「むかしの暮らし」展展示	尾崎・村上	小学3年生見学対応用展示「むかしの暮らし」 展設営	10
16	12/11	木	13:30	12月例会	尾崎・村上	小学3年生見学対応準備（見学スケジュール、 見学対応割当など）	18
17	1/12	月	13:30	小学3年生見学対応事前準備	尾崎・村上	石臼体験コーナーや「昔の道具調べクイズ」 の会場準備	9
18	2/8	日	10:00	「火のし・炭火アイロン」 ／石臼体験	村上	小学3年生見学対応展示「むかしの暮らし」 展付帯事業運営	8
19	2/13	金	9:30	「むかしの暮らし」展撤収	尾崎・村上	小学3年生見学対応展示「むかしの暮らし」 展撤収、片付け	7
20	2/17	火	13:30	2月例会	尾崎・村上	小学3年生見学対応の反省・評価、館外視 察研修、部会活動について	14
21	2/24	火	9:00	ミニ展「ひなまつり」展示	柳戸	「ひな飾りお宝展 in 飯能」の一環であるミニ 展でひな人形を館内に展示	2
22	3/20	金	8:00	館外研修会（3月例会）	尾崎	府中市郷土の森博物館見学	13

合計 245人

## 部会 A 休日の体験学習プログラム

回	活動日	曜日	時間	内容	参加人数
1	6/19	木	15:30	今後の活動方針検討	5
2	7/12	土	9:00	夏休み子どもクラブにおける水鉄砲づくり事前準備	7
3	8/23	土	9:30	次回の体験学習プログラム検討	5
4	9/28	日	10:00	活動方針の確認	4
5	12/13	土	10:00	今後の活動方針再検討	6

合計 27人

## 部会 B 昔のくらし体験・まちなか体験ツアー

回	活動日	曜日	時間	内容	参加人数
1	6/19	木	15:35	今後の活動方針検討	4
2	7/3	木	13:30	第一小学校などに行っていた内容を基にした原案検討	5
3	7/17	木	14:00	夏休み子ども歴史教室「探検！絹葺」プログラム説明	7
4	9/19	金	15:30	プログラム原案検討	3

合計 19人

## 部会 C 常設展示室における体験学習プログラム

回	活動日	曜日	時間	内容	参加人数
1	6/19	木	15:30	今後の活動方針検討	8
2	7/8	火	9:30	常設展示室・収蔵資料確認、プログラム検討	7
3	7/29	火	9:30	プログラム検討（紙芝居に決定）	8
4	8/19	火	14:00	子ども図書館所蔵の紙芝居確認	8
5	8/26	火	15:10	紙芝居の試演、実施候補作品検討	8
6	9/9	火	13:30	紙芝居実演候補作品の選定、試演	6
7	9/19	金	15:30	紙芝居プログラム案の検討	4
8	10/7	火	13:30	実演する紙芝居決定、演出・備品など検討	8
9	10/19	日	11:45	紙芝居実施企画案、マニュアル検討	6
10	11/18	火	14:40	実施マニュアル、常設展示室における配置確認	6
11	11/26	水	13:30	マニュアル、備品など最終確認、紙芝居サイトから情報収集	9
12	12/11	水	15:00	担当割当の決定	9
13	1/8	木	9:00	常設展示室「平地のくらし」展示替え・リハーサル	9

合計 96人

# 郷土館友の会

飯能市郷土館友の会は郷土館の活動を後援し、また展示、収蔵資料を通して知識を培うことを目的とする団体で、平成2年4月1日に発足した。年会費は500円で、主催事業には、毎年7月3日の「一絃琴献奏の会」、1月の「まゆ玉づくり」及び「新春琴の調べ」がある。そのほか会員には当館から特別展等事業の案内が送られることになっている。

近年、会員の高齢化とともに友の会活動への参加や会費納入のために来館する会員が大幅に減少していることから、当年度に会員全員に対して、期限を設けて継続を希望するかどうかの意志確認を行った。その結果、会員数は平成20年度末の段階で83名となった。

## 一絃琴献奏の会

飯能市中山の智観寺には、徳川御三家のうちの1つ水戸徳川家の付家老を代々務めた中山家の墓所がある。中山氏十代の信敬は文武両道に優れ、中でも「一絃琴」の名手といわれている。毎年、その命日である7月3日に智観寺に集い、中山氏の遺徳を偲びつつ、高橋通氏の一絃琴を献奏している。

日 時 平成20年7月3日(水)  
午後2時～4時  
参加者 37人  
奏 者 高橋 通氏

## まゆ玉づくり

養蚕の盛んなところでは、小正月や初午などに繭の増収を祈って団子を作り、つげの木などの小枝にさして飾る。このときに作った団子を「繭玉」といい、本市域でもかつては広くみることのできた行事であった。

この小正月の行事を見直し未来に伝えていくため、「まゆ玉」を作り、小枝にさして飾る学習会を開催している。

日 時 平成21年1月11日(日)  
午後1時30分～3時30分  
会 場 当館学習研修室  
参加者 34人  
指導者 内沼須美氏ほか2名

## 新春琴の調べ

正月の雰囲気味わってもらうために、平成17年度より、休憩コーナーを舞台に琴の演奏会を開催している。

日 時 平成21年1月12日(月)  
午後1時30分～2時30分  
会 場 当館休憩コーナー  
参加者 27人  
奏 者 高橋澄子氏ほか4名



まゆ玉づくり

博物館と学校教育との連携は、学校での「総合的な学習の時間」の導入や「地域学習」の重視から、近年多くの博物館で取り込まれるようになってきた。当館では、小学生の見学対応、小中学校社会科研究展、出張授業、中学生社会体験チャレンジ(職場体験)の受け入れなどを実施している。このほか、学校への資料の貸出や、地域学習の一環として児童・生徒がグループ単位で当館を利用することなども増えており、当館と学校との距離が縮まりつつある。

## 小学3年生見学対応

市内の小学3年生が社会科の「昔の人々とくらし」の単元で地域学習をする中で、例年1月から2月にかけて当館を見学している。準備経過は以下のとおりである。

まず毎年9月ごろに各小学校に見学の希望を確認している。日程調整終了後、11月になって担当の先生と打合せをし見学内容を決めている。当館では、このために3つのプログラムを用意しているが、その内容の改善、準備、当日の説明や指導は市民学芸員が中心となっておこなっている。

平成17年度からは、希望する学校には市のバスを使って児童の送迎を行うこととした。その結果、公共交通機関の時刻や給食の時間を心配する必要がなくなり、当館での学習時間も十分に取れるようになった。

また、通常だと3つのプログラムを同時並行で行い、3つを順番に巡ることですべての児童が全プログラムを体験できるように予定を組んでいるが、少人数の学校の場合は、1つのプログラムを1つずつ行っていくため市民学芸員の手が空いてしまう。それを防ぐためと市のバスでは1回で乗り切れない人数の学校を何回かに分ける必要から、学校の協力を得て、2つの学校を同じ日に見学してもらうことも始めた。

なお、当館で用意している3つのプログラムの内容は次のとおりである。

### ①常設展示見学

常設展示のうち「乱世に生きぬく(中世)」のコーナーで長光寺雲版と常楽院の軍荼利明王立像などの国指定重要文化財(飯能のたからもの)と「山地のくらし(民俗)」のコーナーにおける西川材の2つのテーマの説明を行っている。また、当該年度から新

たに昔の子どもの遊びを学んでもらうため、紙芝居の実演と解説をプログラムに加えた。

### ②むかしの道具さがしクイズ

これは、学習研修室に20点の民具を4箇所に分けて置いておき、児童には最初にそれを観察したり触れたりしてもらった後、その中から「洗濯」、「炊事」、「学校生活」、「暖房」に使う道具を探してもらうというクイズ形式の学習である。最後にパネルを使って正解を伝えるとともに、道具の使い方を説明する。

### ③体験学習

石臼と昔のアイロンの体験を行う。

石臼体験は休憩コーナーに設置した石臼台で米と大豆を挽いてもらい粉にする。

昔のアイロンの体験では、特別展示室にしつらえられた農家の台所を再現した「民家の台所」の中の板の間に上がってもらい、そこでもってきたハンカチに火のしと炭火アイロンを使ってアイロンがけをしてもらう。アイロンを待っている時間は、土間部分にある水場やかまど、昔の農具などを自由に見学してもらっている。



常設展示室・紙芝居の解説

### 小学3年生見学対応一覧

No.	実施日	小学校名	学級数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	備考
1	1/14(水)	飯能第一	2	66	徒歩	9:00	11:30	150	9	1月14日と15日に分けて2クラスずつ実施。
2	1/15(木)	飯能第一	2	66	徒歩	9:00	11:30	150	9	〃
3	1/16(金)	富士見	3	93	徒歩	9:05	11:55	170	10	
4	1/20(火)	加治	1	33	市バス	9:07	11:45	158	15	1月20・23日・2月3日に1クラスずつ実施。
		南高麗	1	16	市バス					
5	1/22(木)	飯能第二	1	13	市バス	9:30	12:00	150	13	
		精明	2	33	市バス					
6	1/23(金)	東吾野	1	10	市バス	9:15	11:45	150	11	1月20・23日・2月3日に1クラスずつ実施。
		加治	1	33	市バス					
7	1/27(火)	美杉台	2	69	徒歩	9:22	11:50	148	11	
8	1/28(水)	原市場	2	59	市バス・路線バス	9:05	11:40	155	7	
9	1/30(金)	名栗	1	23	市バス	9:01	11:35	154	10	
		西川	1	12	市バス					
10	2/3(火)	加治	1	33	市バス	9:15	11:45	150	12	1月20・23日・2月3日に1クラスずつ実施。
		加治東	1	27	市バス					
11	2/4(水)	双柳	1	36	市バス	9:05	11:40	155	14	2月4日・5日に1クラスずつ実施
12	2/5(木)	双柳	1	36	市バス	9:05	11:40	155	12	2月4日・5日に1クラスずつ実施

合計 13校      合計児童数 658人

市民学芸員のべ人数 133人



火のし・炭火アイロンの解説

# 飯能市小・中学校社会科研究展

## 1. 趣 旨

社会教育機関としての博物館は、学校教育と連携して教育の振興を担う一面も持っている。学校教育においては近年、特に主体的に学習する能力の育成がさげばれている。そうした中で夏期休業中は比較的時間に余裕があるので、市内の小中学校では、自由研究を課すところが多い。

理科や技術家庭、美術科においては作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているが、社会科においては同様の機会がないのが現状である。しかし、児童生徒の地域研究の意欲は強く、研究の質も高いと言える。このような作品を公共の場で市民に公開し、評価していただく場を設けることは大きな教育的効果が期待できる。

平成10年度に「中学生社会科研究展」として始ま

った本展示は、平成13年度より対象を小学生まで広げたが、本年度はその11回目である。

作品を出した児童生徒には、賞状と参加賞が渡される。また、仕事帰りの保護者が見学できるように、展示期間中は開館時間を2時間延長して午後7時までとした。

なお、この事業は、市内小中学校社会科主任会との共催である。

## 2. 展示概要

期 間	平成20年9月13日(土)～28日(日)
開館日数	13日間
入館者数	1,206人(1日平均92.8人)
展示点数	小学生134点(137人) 中学生 81点(87人)



展示風景 (展示ホール)



展示風景 (特別展示室)

# 出張授業

市内の小中学校からの依頼により、当館学芸員が学校に出向いて授業を行う出張授業も、学校と連携した重要な事業である。児童・生徒が地域学習をする中で、地域のことを専門に調査研究している学芸員から話を聞くことは、子どもたちの関心を高める効果が高い。このため、近年、学校からの依頼が増加してきている。

授業の内容としては、地域学習のための導入として地域の歴史の概要や調べ方を説明するものが多いが、それ以外にもフィールドワーク、実物資料を使った授業などもある。毎年同じテーマでの授業を求められるが、内容については児童生徒の反応等を参考にしながら、教材を替えるなどして適宜改善に努めている。



美杉台小学校4年生のフィールドワーク（前ヶ貫・征矢神社）

## 出張授業一覧

No.	実施日	学校名	学年	科目	テーマ	内容	担当学芸員	対象人数
1	4/25(金)	美杉台小学校	4	総合学習	みずぎの歴史	総合的な学習の導入として、美杉台地区の歴史、地域に残る遺産などを説明した。	尾崎	97
2	5/7(水)	美杉台小学校	4	総合学習	フィールドワーク(前ヶ貫地区)	前ヶ貫地区を児童といっしょに歩き、昔からある土蔵や堰、石塔などを解説した。	尾崎	31
3	5/8(木)	美杉台小学校	4	総合学習	フィールドワーク(矢嵐地区)	矢嵐地区を児童といっしょに歩き、昔からある土蔵や寺子屋の建物、神社について解説した。	尾崎	31
4	5/9(金)	飯能第一小学校	5	総合学習	一小周辺の歴史と飯能の方言	総合的な学習の導入として学校周辺の「古いもの」と方言について概要を説明した。	柳戸	127
5	5/15(木)	美杉台小学校	4	総合学習	むかしの手紙と矢嵐の方言	矢嵐の古文書を使って、昔の文字や洪水の被害について話をした。また方言もクイズ形式で紹介した。	尾崎	31
6	5/21(水)	美杉台小学校	6	総合学習	縄文土器の焼成体験①	縄文土器について解説をしたあと、実物を参考にしながら粘土で縄文土器を作成した。	村上	100
7	6/18(水)	加治小学校	3	総合学習	加治の自慢を見つけよう①	加治地区の古い写真や地域にある石仏、寺社などについて解説した。	村上	96
8	6/25(水)	美杉台中学校	全校	総合学習	①「飯能戦争」	「振武軍廻文」を教材に飯能戦争について説明し、あわせてこの文書からわかることを考えてもらった。	尾崎	6
9	6/25(水)	美杉台中学校	全校	総合学習	②「水害の被害に悩まされ続けた矢嵐・前ヶ貫」	矢嵐・前ヶ貫に住んでいた人たちの、洪水との戦いの歴史について、古文書を教材に説明した。	尾崎	3
10	6/25(水)	美杉台中学校	全校	総合学習	③「方言をさぐる」	飯能の代表的な方言を紹介し、方言の特徴、調べ方を解説した。	柳戸	29
11	7/1(火)	美杉台小学校	6	総合学習	縄文土器の焼成体験②	5月に児童が作って陰干した縄文土器を校庭で野焼きをした。	村上	100
12	10/8(水)	加治小学校	3	総合学習	加治の自慢を見つけよう②	調べ学習を進めている児童の質問に答えていった。	村上	32
13	10/9(木)	美杉台小学校	5	国語科	ニュース番組作り	美杉台小学校の歴史について、児童からのインタビューに答えた。	尾崎	6
14	11/12(水)	飯能第一小学校	4	社会科	宮沢湖の開拓について	宮沢湖ができるまでの経緯や工事の様子を説明した。その後、工事に使用したものと同種の道具を観察してもらった。	柳戸	133
15	11/20(木)	美杉台小学校	4	社会科	宮沢湖の開拓について	宮沢湖ができるまでの経緯や工事の様子を説明した。その後、工事に使用したものと同種の道具を観察してもらった。	柳戸	97

合計 919人

## 来館しての学習

当館の学芸員が学校に出向いて行るのが出張授業であるのに対し、それとは逆に、学校の児童・生徒が来館し学習することもある。その代表的なものは毎年1～2月に実施している小学3年生見学対応であるが(30ページ参照)、それ以外にも下表のような

学習があった(調べ学習等のために数人で来館した見学やレファレンス等は除く)。

来館しての学習は、出張授業と比べるとより多くの収蔵資料や展示資料を活用できる利点がある。ただし、足の問題があるためかその回数は横ばいである。

### 来館しての学習一覧

No	実施日	学校名	学年	科目	内 容	担当学芸員	人数
1	10/22(水)	原市場小学校	3	社会科	常設展示室で西川林業の解説を行ったあと、その道具についてのクイズを行った。唐箕の観察してもらった。	尾崎・村上	67
1	11/19(水)	南高麗小学校	3・4	総合学習	シンボル展示「筏」を使って西川材の歴史を説明し、西川林業の道具についてのクイズを行った。	尾崎・村上	16
2	12/16(火)	自由の森学園高校	2	総合学習	常設展示室で飯能戦争と飯能焼について説明したあと、智観寺を案内した。	尾崎	5

合計 88人

## 中学生社会体験チャレンジ

飯能市内の中学校では、中学1年生の生徒が、仕事の厳しさや働く喜びなどを学ぶために、市内の事業所や公共機関等で3日間、職場体験をする「中学生社会体験チャレンジ事業」を実施している。

当館でも毎年生徒を受入れ、博物館の業務を体験してもらっている。外から見ただけではわからない裏方の作業を体験することにより、その大変さや楽しさを実感してもらうだけでなく、当館の役割や学芸員の仕事内容を伝えることにも役立っている。



加治中学校生徒の職場体験

### 中学生社会体験チャレンジ一覧

No.	実施日	学校名	人数	内 容
1	12/9(火)～12(金)	美杉台中学校	3	館内清掃、特別展の片付け、刊行物の在庫確認、収集資料の清掃など
2	1/28(水)～30(金)	飯能第一中学校	3	小学3年生見学対応補助、館内外清掃、刊行図書 of 整理など
3	2/3(火)～5(木)	加治中学校	4	小学3年生見学対応補助、資料の整理、刊行物領収書の作成など

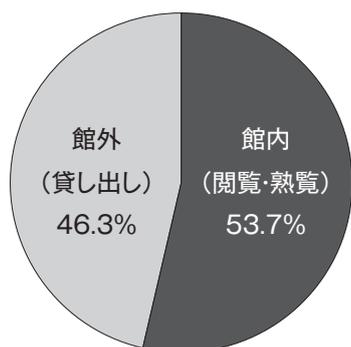
## 収蔵資料の利用（閲覧・貸し出し）

当館では、民具、古文書、古写真やビデオ、書籍などの飯能市に關係するものを中心に様々な資料を収蔵している。これらの資料は展示会や講座、学習会など当館主催事業に使用するだけでなく、資料を傷めない範囲で市民や団体等に利用していただいている。その方法としては館内での閲覧と館外への貸し出しがある。

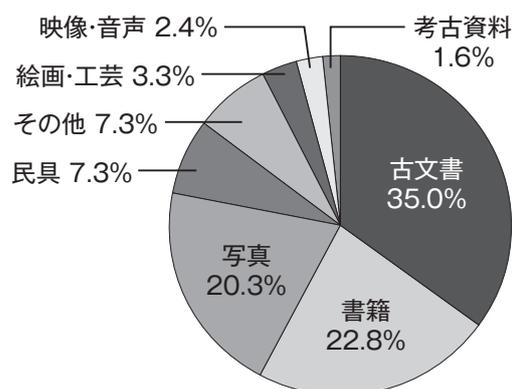
利用者の内訳を見ると、個人及び団体による調査研究や地域学習のための利用が最も多く、例年この両方で7割前後を占める。市内の小中学校の利用は徐々に増えてきているが、他の博物館や大学からの研究や展示を目的とした利用は極めて少ないのが当館の特徴である。

利用資料の種別では古文書類が最も多いが、これは古文書同好会、古文書勉強会といったサークル活動のテキストとして使用しているためである。書籍、写真類の利用がそれに続くが、この傾向は例年のとおりである。

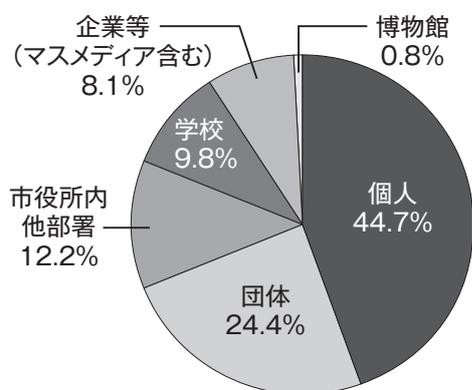
◎利用方法別内訳



◎利用資料種別内訳



◎利用者別内訳



加治小百周年記念展示（一覧表No.55）

平成20年度資料利用一覧

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
1	「糞尿関係書類」など	3	個人	調査	4/11
2	『吾野宿今昔』	1	市生涯学習課	文化財マップ作成	4/16～18
3	「上直竹上分・下分村誌」	2	個人	上直竹村の歴史調査	4/19
4	常設展示室「乱世に生きぬく」展示風景		個人	博物館の歴史展示研究	4/20
5	建設中の美杉台小学校写真など	3	美杉台小学校20周年記念行事準備委員会	美杉台小学校20周年記念誌作成	4/25～6/30
6	堀越家文書「表彰状」など	4	個人	所沢織物関係資料の研究	4/27
7	須田家文書「卯日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	5/1
8	『改訂増補青梅市史』（上・下）	2	個人	調査	5/5
9	西村家文書「村差出明細帳」など	26	個人	近世在方市の研究	5/8
10	「吾野水電(株)事務日誌」	2	駿河台大学	研究	5/8～31
11	黒田幹太郎絵はがき原画「飯能の緑と清流に憩う」など	2	個人	遊美会展示に出品	5/9～
12	浅見家文書「村差出明細帳」など	15	個人	近世在方市の研究	5/9
13	堀越家文書「染織物標本」	1	織研ねこまた	所沢織物関係資料の研究	5/11
14	『飯能市の昭和史』など	3	個人	調査	5/14
15	堂ノ根遺跡出土須恵器蓋	1	埼玉県立自然史博物館	写真を特別展に展示	5/22
16	引札	4	F M茶笛	ブログに掲載	5/22
17	双木家文書「乍恐以書付奉申上候」など	5	個人	飯能の歴史研究	5/27
18	堀越家文書「各国参考切本織物切本」など	12	織研ねこまた	市民学芸員講座事前打合せ	6/22
19	マイギリ	1	富士見小学校	クラブ活動での体験	6/17～19
20	「旭橋」写真資料カードなど	130	個人	河川のアーカイブ研究	6/19
21	須田家文書「辰日記」など	15	個人	災害調査	7/4
22	いかだ流し実演写真データ	5	テレビ大阪	番組『和風総本家』製作	7/4～21
23	『飯能遊覧地設計』	1	市市民生活部	調査	7/11
24	岡部家文書「打壊し不参加に付歎願」など	2	古文書勉強会	古文書学習のテキスト	7/12
25	堀越家文書「染織物標本」	1	織研ねこまた	所沢織物関係資料の研究	7/20
26	昭和35年飯能市都市計画図など	2	市エコツーリズム推進室	エコツーリズムオープンカレッジ開催	8/1
27	シンボル展示「筏」	1	エコライフ飯能	エコツアー実施で写真を使用	10/11～12
28	『中山信吉』	1	個人	夏休みの課題	8/5～7
29	ビデオ「日本刀のできるまで」	1	テレビ朝日映像(株)	「牛山純一20世紀の映像遺産」製作	8/6～9/5
30	『国立歴史民俗博物館研究報告72』など	3	市生涯学習課	調査研究	8/6～15
31	「説教節武蔵野史談飯能の嵐」など	2	飯能西中学校 PTA	調査	8/7
32	『万造じいさんの馬車鉄道夜ばなし』など	2	個人	総合学習	8/10
33	『神奈川の古代道』など	2	市生涯学習課	研究	8/14～3/20
34	「旭橋」写真資料カードなど	130	個人	卒業論文作成	8/15
35	中村家文書「地誌編輯取調書類」など	50	地方史料調査会	中村家文書目録解題執筆	8/17～18
36	『祭囃子と獅子舞』	1	個人	夏休みの自由研究	8/19
37	『平成18年版はんのうし』など	4	個人	レポート作成	8/20
38	『思い出写真集飯能』など	2	個人	調査	8/20
39	昭和35年飯能市都市計画図	1	市都市計画課	旧山道等の確認	8/21
40	田中家文書「荻野吟子書状など	2	ぐるーぶ「倶楽志」in 飯能	エコツアーの事前調査	8/21
41	いかだ流し再現写真など	2	有限会社ハユマ	『自給力でわかる日本の産業』に掲載	8/22～9/30
42	深澤はな氏聞き取り調査報告など	2	精明郷土史研究会	調査	8/23
43	「入間川の製氷所」写真プリントなど	14	個人	卒業論文作成	9/25～10/8

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
44	名栗小学校関係写真プリント	13	名栗小学校 PTA	名栗小校舎さよならイベント記念DVD作成	8/24～26
45	「市制祝賀・三ヶ村合併祝賀」写真など	80	文化新聞社	文化新聞「あの頃の飯能・文化写真館」に掲載	9/3～3/31
46	中村家文書「公私有事務日誌簿」など	23	個人	中村家文書目録解題執筆	9/6
47	中村家文書「巳村入用覚之帳」など	3	個人	古文書同好会テキスト確認	9/6
48	須田家文書「甲辰日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	9/10
49	冷蔵庫など	12	個人	社会科授業宿題	9/14
50	堀越家文書「染織物標本」など	2	織研ねこまた	所沢織物関係資料の研究	9/14
51	『諏訪乃森の神々』	1	個人	エコツアー実施	9/15
52	中村家文書「巳村入用覚之帳」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	9/20
53	『武陽山能仁寺』	1	個人	エコツアー実施	9/23～27
54	「中山信吉木碑」写真パネルなど	2	エコツーリズム活動市民の会	エコツーリズム実施	9/27～30
55	生徒用学習机など	9	加治小学校百周年実行委員会	加治小学校開校百周年記念事業に展示	10/3～21
56	須田家文書「甲辰日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	10/2
57	「旭橋」写真資料カードなど	130	個人	卒業論文作成	10/5
58	深澤はな氏聞き取り調査報告	1	精明郷土史研究会	調査	10/7
59	『飯能戦争』など	2	個人	社会科副読本の編集	10/11～18
60	旧東吾野支所所在板碑	7	東国文化研究会	板碑(庚申侍)調査	10/18
61	堀越家文書「染織物標本第壹類」など	2	織研ねこまた	所沢織物関係資料の研究	10/19
62	「宮沢湖堰堤工事左岸土取場並溜池敷地全景」写真プリントなど	6	南高麗小学校	社会科授業の教材	11/21～12/13
63	「公会堂落成」写真プリント	1	飯能美術家協会	50回記念誌作成	10/26
64	「飯能駅北口」写真パネルなど	17	中央公民館	主催講座開催	10/28～29
65	『西川林業の道具』展図録など	2	(株)パワーブランド	林業関係イベント企画	10/30～1/16
66	脇指「国助」など	5	飯能刀剣会	文化祭刀剣展に展示	11/16
67	振武軍旗写真フィルムなど	2	(株)帝国書院	中学生社会科資料集「中学校スタンダード歴史資料 埼玉県版」に掲載	11/2～12/2
68	シンボル展示「筏」	1	坂戸郷土史研究会	ビデオ撮影(研究会で発表)	11/7
69	男物単羽織など	2	個人	研究	11/11
70	千歯抜き	1	東吾野小学校	稲の脱穀の学習(社会科)	11/11～19
71	双木本家飯能焼コレクション「麦文小皿」など	7	飯能エコツーリズムふる里案内人	エコツアー実施	12/7
72	田中家文書・荻野吟子書状など	3	ぐるーぶ「倶楽志」in飯能	エコツアー実施	11/15
73	2万分の1フランス式色彩地図(迅速測図)など	15	市生涯学習課	埋蔵文化財文献調査	11/12～3/19
74	須田家文書「甲辰日記」	1	個人	古文書同好会のテキスト	11/14
75	名栗スポ少10周年ネガフィルム	2	個人	名栗スポーツ少年団30年記念事業実施	11/14～21
76	堀越家文書「染織物標本」など	2	織研ねこまた	所沢織物関係資料の研究	11/16
77	『名栗村の仏像』掲載写真フィルム	9	市生涯学習課	『飯能の指定文化財』作成	11/27～12/5
78	「ファミコンで遊ぶ」写真など	2	市生涯学習課	平成20年度成人式冊子の刊行	11/27～12/28
79	印袴纏など	2	みんなネットワーク飯能	学習	12/5
80	「[阿岩橋、岩澤側たもと]」写真プリントなど	2	個人	ふるさと加治歴史講座で展示	1/23～30
81	埼玉県指定文化財「トウグワ」など	24	全国森林組合連合会	「森林の仕事ガイダンス2009」で展示	1/6～27
82	『戦争を語りつぐ』	3	個人	調査	12/2

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
83	「前ヶ貫・矢嵐」の空撮写真など	9	美杉台小学校	4年生の国語科新聞作り	12/2～9
84	「説教節武蔵野史談飯能の嵐」	1	個人	研究	12/4
85	『能仁寺』・『飯能市史通史編』	2	個人	調査	12/6
86	『東吾野郷土誌』	1	個人	東吾野の学習	12/7
87	『名栗の仏像』写真フィルムファイルなど	2	市生涯学習課	『飯能の指定文化財』作成	12/9～25
88	常設展示室「山のくらし」展示風景など	13	全国森林組合連合会	雑誌「森林組合」に掲載	12/9
89	「新名栗音頭」レコード	1	みんようネットワーク飯能	学習	12/12
90	中村家文書「明治神宮建設請願書写」など	3	個人	明治神宮建設の研究	12/13
91	『はんのうなんでも大全集』	1	個人	エコツアー準備	12/16
92	「双柳の苗木畑」写真プリントなど	22	全国森林組合連合会	「森林の仕事ガイダンス2009」のパネル作成	12/21～1/16
93	『観光埼玉』	1	駿河台大学文化情報学部塚本ゼミ	テレビ飯能番組「見つけた」製作	12/17
94	『写真でたどる飯能市の50年』展示の記録』	1	個人	60歳のつどい開催	12/19～26
95	「高麗郡飯能町之景」写真プリントなど	2	市生涯学習課	建造物説明看板の作成	1/6～2/27
96	『飯能市役所ホッケー部40周年記念誌』	1	個人	研究	1/7
97	須田家文書「甲辰日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	1/9
98	常設展示室「最初に住みついた人々」など展示風景		個人	大学のレポート作成	1/11
99	『入間川再発見！』展図録	1	個人	郷土代表文化親善大使として魅力紹介	1/14～2/7
100	市指定文化財「野口観音堂奉納かな写経」	1	市生涯学習課	『飯能の指定文化財』作成	1/14
101	飯能戦争砲弾	2	個人	研究	1/15
102	『入間川再発見！』展図録	1	市商工観光課	観光案内の資料	1/16～2/10
103	堀越家文書「大正拾年金円出入帳」など	2	織研ねこまた	所沢織物関係資料の研究	1/18
104	柏林寺十一面観音像写真フィルムなど	3	市生涯学習課	『飯能の指定文化財』作成	1/20～2/18
105	ひな人形・ひな段	2	木馬をつくる会	第4回「雛飾り in 飯能」開催	2/5～3/4
106	「川寺渡船場の橋」写真プリントなど	2	エコツーリズム活動市民の会	エコツアー実施	2/5～10
107	箱膳など	20	エコツーリズム活動市民の会	エコツアー実施	2/14
108	須田家文書「甲辰日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	2/11
109	『写真でたどる飯能市の50年』	1	飯能ケーブルテレビ(株)	番組「あっちこっち散歩日和」企画	2/13～3/20
110	「飯能時報」	1	文化新聞社	記事掲載	2/18
111	『日本の林業』①～④	4	原市場小学校	総合的な学習の時間準備	2/20～3/12
112	くだまき	1	美杉台小学校	国語科「たぬきの糸車」教材	2/25～26
113	須田家文書「甲辰日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	2/20
114	『飯能の刀匠』展図録	1	個人	刀剣研究	2/27～3/13
115	「大通り」写真データなど	10	飯能ケーブルテレビ(株)	「あっちこっち散歩日和」製作	3/6～23
116	「材木置場」写真データ	1	個人	加治小学校の授業教材	3/9
117	『飯能人物誌』	1	個人	郷土史、織物史の研究	3/7
118	須田家文書「甲辰日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	3/7
119	堀越家文書「野上式動力織機説明書」など	7	織研ねこまた	所沢織物関係資料の研究	3/8
120	『新編埼玉県史通史編4』	1	個人	地域研究	3/13
121	須田家文書「甲辰日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	3/26
122	「精明音頭」テープなど	5	みんようネットワーク飯能	学習	3/27～4/3
123	須田家文書「甲辰日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	3/28

※利用期日の開始が平成20年4月1日から平成21年3月31日までのものを申請順に配列した。

## 施設の利用

飯能市郷土館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

学習研修室は、講座・学習会や定点撮影プロジェクト、市民学芸員といった交流事業など当館の主催事業のほか、飯能の歴史や地域文化の振興に関わる学習活動を行っている団体、サークルに利用されている。その他、団体での見学者や市内の小学生の見学、他の市町村からの視察の対応などにも使用されている。

なお、平成20年度は、特別展示室・図書室の一般利用はなかった。

### 学習研修室利用実績

利用種別	年 度	平成18(2006)年度		平成19(2007)年度		平成20(2008)年度	
		件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
団体等の利用	恒常的活動(学習サークル)	65	887	76	1,128	86	1,233
	見学・閲覧	11	348	16	319	9	263
	他団体の主催事業等	9	175	10	189	19	424
	小 計	85	1,410	102	1,636	114	1,920
	郷土館の主催事業	85	1,301	85	1,843	66	1,238
	合 計	170	2,711	187	3,479	180	3,158
	年間利用日数	150日		156日		152日	

### ◎主な利用団体

古文書同好会・古文書勉強会・飯能郷土史研究会・多聞の会・石仏談話会・ずいひつの会・飯能市郷土館友の会・みんなネットワーク飯能・「飯能の民踊」を踊りつぐ会

### ◎平成20年度末現在で活動している学習サークル

#### 古文書同好会

設 立 平成3(1991)年4月  
 目 的 飯能市内の古文書の解読と時代背景の研究及びその活字化。  
 代表者 中里和夫  
 会員数 20人  
 活 動 毎月第1・3土曜日

#### 古文書勉強会

設 立 平成18(2006)年12月  
 目 的 飯能市内の古文書の解読をとおして歴史を知る。  
 代表者 不在  
 会員数 10人  
 活 動 毎月第2・4土曜日

#### 多聞の会(仏教美術学習会)

設 立 平成6(1994)年11月  
 目 的 仏像・仏画・仏教建築など広く仏教及び仏教美術についての学習。  
 代表者 綾部光芳  
 会員数 22人  
 活 動 8月を除く毎月第3木曜日に例会(うち見学会3回)

#### 石仏談話会

設 立 平成7(1995)年1月  
 目 的 石仏を通してその時代背景や歴史、文化を学ぶ。  
 代表者 不在  
 会員数 13人  
 活 動 第2金曜日に活動(学習会と見学会)

#### 飯能郷土史研究会

設 立 昭和48(1973)年7月  
 目 的 郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。  
 代表者 坂口和子  
 会員数 81人  
 活 動 年6回の例会

#### みんなネットワーク飯能

設 立 平成8(1996)年  
 目 的 民踊をとおして心身の健康を高めるとともに、見聞を広め、郷土の文化を継承する。  
 代表者 石井英子  
 会員数 35人  
 活 動 不定期

# レファレンスの対応

当館には、窓口や電話、電子メールによる様々な問い合わせがある。その内容は、観光情報や文化財の所在地といったその場で答えられるものから、史料の有無や地域の歴史掘り起こしなど回答に時間がかかるものまで様々である。このうち、調査を行った場合は、その経過や回答内容などを「レファレンス対応記録票」に記入している。その理由は、それが特別展のテーマや調査活動に発展する可能性があるためと、同じような問い合わせがあった場合の時間や作業の無駄を省くためである。平成20年度にレファレンス対応記録票に記入された内容は下記のとおりである。

また、平成18年度からは、それ以外のその場で答えられる内容の問い合わせについては、その件数を把握するために窓口と電話の傍に「件数記録票」を置き、対応するごとに記入することとした。その集計結果は右表のとおりである。

なお、この場合の平均対応時間は1件あたり窓口が3.1分、電話が7.8分である。

## レファレンス対応件数

照会者	窓口	電話	合計
一般	104	25	129
市職員・議員	2	4	6
学校教員	1	0	1
子ども	17	0	17
不明	2	0	2
合計	126	29	155

## レファレンス対応記録一覧

No.	照会日	内 容	回答日	照会者	手段
1	4/25	父(明治27年生まれ)が飯能第一小学校へ通学していたか?	5/10	一般	電話
2	5/14	本郷囃子連で新調する裃のデザインを検討するための資料	5/14	一般	来館
3	6/13	久須美の山崩れについて	6/13	研究者	来館
4	7/8	飯能戦争を題材とした講談について	8/7	一般	来館
5	8/7	元の阿岩橋の位置について	8/7	市職員	電話
6	8/19	「変事出来二付心得覚記」の地名、寺院名について	8/19	一般	E-mail
7	8/20	精明小学校にあった日立航空機立川発動機製作所で働いていた少年工が宿泊していた寺	10/5	一般	文書
8	8/27	飯能小唄の歌詞、楽譜について	8/28	一般	電話
9	9/10	真福寺(中山)が1番札所になっているかどうか	9/11	一般	電話
10	9/11	幕末の鉄砲鍛冶、田中政庸について	9/19	一般	電話
11	10/2	名栗川小唄の歌詞について	10/2	名栗公民館	電話
12	10/27	『飯能市史』資料編5(産業)掲載の「飯能町商業戸数」等の元資料について	11/9	研究者	電話
13	11/7	大野鉄人(嘉太郎)についての資料	12/4	一般	来館
14	11/24	飯能の花柳界資料について	12/3	研究者	電話
15	11/30	第一小学校のナンジャモンジャの木について	11/30	図書館	電話
16	12/14	町田家の図像板碑について	12/14	一般	E-mail
17	1/15	千家元麿について	1/15	朝日新聞	来館
18	2/10	御材木の史料に出てくる「かりぬき」の意味について	2/10	一般	電話
19	2/14	田地質物証文に出てくる「佐右衛門切」の「切」とは何か?	3/4	一般	来館
20	3/11	「旧幕府旗本人名録」の人名(くずし字)について	4/4	一般	E-mail

# 講師派遣

当館に対しては、他の団体や機関から講師派遣や原稿執筆の依頼が年間数件ある。これも地域の文化・歴史を調査、研究する機関としての存在価値を示すバロメータである。

なお、講師派遣のうち学校からのものは「博学連携」の出張授業の項（33ページ）に掲載してあるため、それ以外のものについて示すと、下記のとおりとなる。

## 講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内 容	対象者	人数	会 場	担当学芸員
1	4/4(金)	14:00 ～ 15:30	飯能市役所職員課	新規採用職員研修「飯能の地理と歴史」	新規採用職員	8	飯能市役所	柳戸
2	8/1(金)	13:10 ～ 16:00	飯能市教育センター	2年次教員研修会「郷土館と学校との連携について」・常設展示と収蔵庫見学	飯能市内2年次の小中学校教員	8	当館学習研修室・常設展示室・収蔵庫	尾崎
3	8/26(火)	9:00 ～ 12:00	飯能市教育センター	「はんのう・探検・発見・体験」研修会 （「飯能市の歴史」・「郷土館と学校との連携について」・常設展示と収蔵庫見学）	今年度初めて飯能市に転入した教職員	22	当館学習研修室・常設展示室・収蔵庫	柳戸
4	9/24(水)	13:00 ～ 13:30	飯能ロータリークラブ	第2301例会卓話「飯能市街地の歴史ー成立・発展とその姿ー」	飯能ロータリークラブ会員	44	飯能プリンスホテル	尾崎
5	12/1(月)	13:20 ～ 14:50	駿河台大学	博物館実習講義「小規模博物館の学芸員の実情」	駿河台大学学生	18	駿河台大学	柳戸
6	2/26(木)	10:00 ～ 11:30	吾野公民館	郷土史講座「振武軍廻文にみる江戸時代の地域」	郷土史講座受講者	17	吾野公民館学習室	尾崎
7	2/27(金)	10:00 ～ 11:30	吾野公民館	郷土史講座「吾野の歴史を文化財と伝承から探る」	郷土史講座受講者	18	吾野公民館学習室	村上

# 収 集

当館はモノ資料やそれに関する情報を通して市民が地域の歴史や文化について学習するための社会教育機関である。その使命を果たすためには、モノ資料を収集し保存することが不可欠である。収集の多くは市民からの寄贈によっているが、それは資料寄贈申請書（施行規則様式第5号）の提出とそれに対する資料受領書（同様式第7号）の交付によってなされ、そこで初めて当館の所蔵となる。

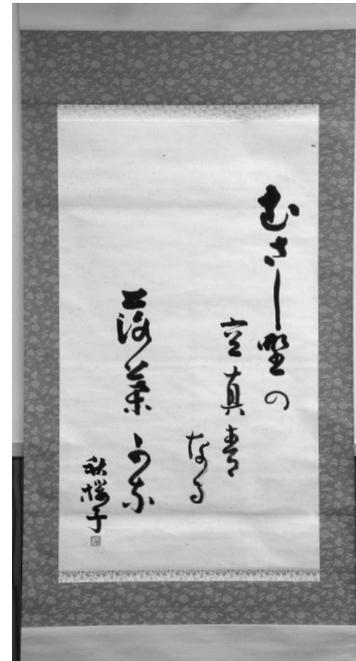
収集の手段としては、このほかに市役所内各課・施設、機関からの移管や購入もある。このようにして収集した資料は、市民の財産として永遠に保存、管理していくために整理作業へと移される。

なお、平成20年度に購入した資料はなかった。

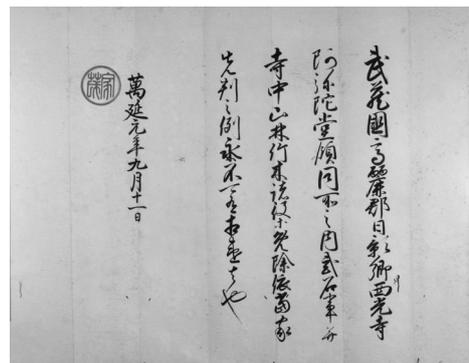
## 寄贈資料

(敬称略)

No.	資 料 名	数量	寄贈者名
1	古文書・古写真	1式	山本 信治
(2)	(欠番)		
3	飯能小唄武蔵ブルース発表会しおり・飯能小唄新飯能小唄しおりなど	4点	行平 直子
4	通い徳利「出口 水村」・鯉節ケズリ	4点	水村 守男
	古文書	1箱	
5	有間溪谷観光釣場関係文書・図面	23箱	有間溪谷観光釣場
6	S式高速度メリヤス機(付属品・台含む)	1式	小川 廣信
	洗い張り道具(張り手・伸子針含む)	1式	
7	古文書	1箱	山中 昭造
8	月刊学友タイムズ(精明学友会発行)・渡辺兼庸氏宛書簡・葉書	16点	渡辺 兼庸
9	『立ち上った武州山方の百姓たち』	1点	野口 頼雄
10	センガン・マルノコヤスリ	2点	浅見 良平
	スリイタ	1式	
11	石田波郷句碑原稿原本色紙(複製)・水原秋桜子句碑原稿ほか	5点	笹本敏・吉良憲一
12	有間ダム模型・鐘・写真アルバム	3点	名栗小学校
13	西武飯能ペペ・プリンスホテル建設風景写真	25点	丸山 清
14	「加治村の歌」等カセットテープなど	1式	師岡 兵作
15	台紙付写真「小川家第十代香魚贈位建碑式記念」	1点	千葉 美子
16	山車の水引幕	1点	宮本町自治会
	山車の緞帳	1式	
17	伊勢西国みちの記	1点	権田 恒夫
18	ミシン鑑札・市制施行10周年記念手拭ほか	26点	野村 美佐
19	飯能焼破片	1式	石森 雅之
20	岡部好央家文書	1式	亡岡部正憲相続財産管財人 土屋良一
21	ランプ	1点	小黒 晃
22	古文書	494点	中村 興夫
	軸装	1式	
23	森口友次郎氏(元市議会議員)関係資料	1式	森口 彰徳
	CD「飯能まつり」	1点	
24	『新訂尋常小学校唱歌』ほか	6点	美杉台公民館
25	武蔵国高麗郡原市場村西光寺文書	1式	石井茂樹ほか13人
26	小説家中谷孝雄氏の二重廻し	1点	田中 順三
27	加治村青年団第一・二支部文書	1箱	新井 喜一



水原秋桜子句碑原稿



原市場村西光寺文書(徳川家茂朱印状)

## 整理（情報化）

当館が収集した飯能市の歴史や文化に関する様々なモノは、そのままでは博物館の資料とはなりえない。「整理」とは、資料についての情報を整理し利用可能なものにする作業で、この過程では様々な記録が作成される（ドキュメンテーション）。42p のところで触れた寄贈申請書などもそのひとつである。

当館の場合は、民具を除いて受け入れ台帳を作成していないので、資料が受領されると資料1点1点についてのカード作成に取りかかる。カードの書式は資料の種類によって異なり、古文書・典籍を除きすべてのカードには資料写真も添付される。それに記載された情報の一部を PC 上の目録に入力し検索の手段とするのである。すなわち整理作業とは、ドキュメント (document) 作成を通した資料の情報化にほかならない。

課題としては、モノに付属しない地域の情報(例えば聞き取り結果や地域遺産の所在情報)の管理についてである。これを組織でどう共有化し引きついでいくか、その検討はこれからである。

### ●資料整理の概要

#### ①民具

民具とは、一般的には人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具であるが、当館の場合、古文書・典籍、古写真、絵画、工芸、考古に属さない資料のすべてがこの範疇で整理されている。

民具が搬入されるとまず受け入れ台帳に登録され、番号が与えられる。それが資料番号となる。そして資料名、寄贈者氏名、住所、寄贈年月日などのほか、寄贈者から聞き取りした製作時の状況や使用した時期、使い方、その大きさや材質などの情報がカードに記録される。平成20年度は44点の資料を整理した。

なお、収蔵している民具のうち、西川材生産に関係する用具448点は埼玉県有形民俗文化財に指定されている。

#### ②古文書・典籍（文献資料）

紙に文字や記号、図像などが記録されている資料がこれに該当する。地域史料と呼ばれているものの中心を占めるものである。これらのほとんどは昭和49年から昭和62年まで行われた飯能市史編さん事業の過程で収集されたものである。

その後、平成7年2月より中性紙封筒・保存箱への詰め替え作業を始めるとともに、再整理作業に着手した。その手順は以下のとおりである。

- 以前は内容により分類され配架されていたものを所蔵者別に改め、史料番号も史料群ごとの通し番号とする。
- 内容を確認しながら史料1点1点についてカードを作成し、それを基にコンピュータで目録を作成する。
- 旧所蔵者の情報や史料群の概要を古文書所蔵者解題カードにまとめる。

単年度に購入できる中性紙封筒の数に限りがあるため、この作業は現在も継続中である。

このほか当該年度は、新たに受け入れた家文書のカードを作成したほか、矢嵐村中村家文書目録の編集作業を行った。

#### ③古写真

当館で収蔵している写真資料は個人所蔵の写真を複写させていただいたものと、館で所蔵しているものの2種類に分けることができる。これらの資料はいずれも、所蔵者(旧所蔵者)を単位に整理をおこない、写真1点ずつカードを作成し、所蔵者などからの聞き取りや他の資料から得られた被写体についての情報を記録している。また、目録データはコンピュータで作成している。

#### ④絵画

軸装や額、屏風などに仕立てられた日本画に加え、本市に在住または、ゆかりのある作家の油彩、デッ



古文書整理風景（地方史料調査会）

サンなどの近代絵画を収蔵している。これらについては作家ごとにカード化し、当館収蔵庫と山手用地内の土蔵にて管理している。

### ⑤工芸

工芸資料には、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションや落合寿親の手による香合、接収刀剣類を含む日本刀などがある。

### ⑥考古資料

当館で収蔵している考古資料は、市民から寄贈を受けた飯能焼原窯表採資料や板碑などである。なお、教育委員会生涯学習課による発掘調査で得られた考

古資料は、山手用地内の生涯学習課収蔵庫で保存されている。

### ⑦その他の資料

このほかに、他の博物館、市の機関などが発行した図録、報告書、要覧などの図書類がある。これらについては発行機関別に受け入れ台帳を作成している。また、本市に関係するビデオソフトや記録映像として価値があるもの、さらにはレコードやテープ、CDといった音声資料も収蔵している。これらの資料についても台帳が作成され、利用できるようになっている。

## カード作成もしくは目録登録済資料点数一覧（平成20年6月現在）

民具	古文書	古写真	絵画	古美術	工芸	文学	考古	映像	レコード	テープ	図書	合計
4,905	25,016	4,632	432	1	272	26	1,764	192	725	84	13,061	51,110

## ●収蔵文書目録その1『武蔵国高麗郡矢嵐村中村家文書目録』の刊行

### (1) 当館所蔵の文書目録

当館では、平成15(2003)年3月の『写真資料目録Ⅰ－明治～昭和前期－』を皮切りに、平成17(2005)年3月の『写真資料目録Ⅱ－昭和・平成－』、平成19(2007)年3月の『飯能の西川材関係用具』と、これまで隔年で3冊の資料目録を刊行してきた。4冊目の収蔵資料目録は、当館では初めての文書目録である。

ただし、当館で収蔵している文書目録の公開はこれが最初ではない。平成13年度に発行された当館研究紀要第2号には、田中かくの荻野吟子宛書簡を含む仲町(二丁目)田中鎮次家文書の目録を掲載している。当該史料群は、「埼玉の偉人」の1人として顕彰されている荻野吟子に関係するとあって市民の関心は高く、ここに含まれている文書や写真は、エコツアー企画の資料として利用された。

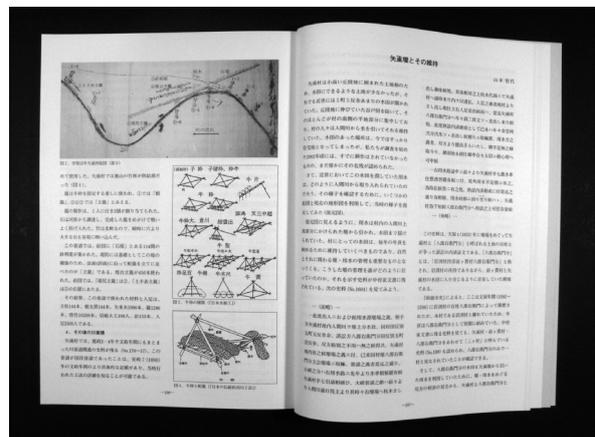
### (2) 本書の特徴

当館における単行の文書目録としては最初のものとなる本書には、いくつかの特徴がある。

ひとつは、史料の整理だけでなく、目録の編集、執筆を地方史料調査会と共に行ったことである。その経緯は、この目録の11～12pに記されているので

ここでは言及しないが、この調査団体との出会いがなければ、恐らくこのような形で文書目録を刊行することは不可能であっただろう。

そしてこの協働作業により、この調査に参加された代表の白井哲哉氏(埼玉県立文書館学芸員・当時)をはじめとする、多くの専門家の指導、助言を得ることができた。また、129名もの多くの方々の参加があったことによって、比較的短い期間で目録刊行までこぎつけることができた。さらに春と夏の年2回、1泊2日の日程で市外からやってくる参加者には、飯能の良さを知ってもらえたのではないだろうか。



中村家文書目録の解説部分

いまひとつは、市民にも使ってもらえる目録を目指した点である。当該目録では、巻末に12のテーマで解説を掲載したが、これらは中村家文書の整理に携わる中で、参加者の一部がそこからわかったことをまとめたものである。解題と合わせて読むことによって、普段から文書を読みつけていない人であっ

ても、矢嵐地区の歴史をある程度理解することができる。この目録が平成21年度2月末時点で、45冊売れているのは、この点によるところが大きいであろう。

なお、この成果を還元するために、平成21年度には矢嵐地区の歴史をテーマとした講座を、地元の美杉台公民館を会場として実施している。

## 修復

### ①市指定文化財「藤枝太郎英義打刀」

この刀は、川越藩の刀工であった藤枝太郎英義によって慶応2年に製作されたもので、落合壽親拵とともに市の指定文化財になっている。長らく個人の所蔵であったが、平成18年3月に所蔵者より当館に寄贈された。

当館に寄贈された時には、数年にわたって刀の手入れがされていなかったようで、鞘から抜くことができない状態であった。その後刀身を細かく観察したところ、刃縁から錆にかけての部分を中心に、10ヶ所ほどの錆やくもりが確認された。このままでは、美術刀剣としての価値を損なうばかりか、錆の進行も危惧されたので、刀身の研磨と白鞘の修理を行った。

### ②丸中織物工場製作昭和初期16mmフィルム

当館では、現在の南町にあった丸中織物工場が昭和10年前後に撮影した16mmフィルム9本を所蔵している(次ページ表)。フィルムは、白黒のポジフィルムでアセテート製である。これらは、本市の様子を撮影した恐らく最も古い動画のうちの1つと考えら

れるが、撮影から70年以上が経過して酢酸臭を放つようになり、支持体の劣化や乳剤の変質、カビの発生など今後の保存が危ぶまれる状況であった。

そこで、専門の業者に依頼してクリーニングを行い、カビや汚れなどの劣化要因を除去した上で、画像のメディア変換を行い、資料として利用ができる状態にすることとした。当年度は2本を修復し、媒体はマスターをDVCAM、視聴用はDVDとした。



丸中織物工場製作の16mmフィルム



No.5のフィルム容器



フィルムの劣化状況

## 丸中織物株式会社製作16mmフィルム一覧

No.	容器外面タイトル	フィルム表題	長さ(フィート)	撮影年月日	製作	撮影	状況
1	丸中用 光栄	昭和九年拾壹月拾七日 光栄 丸中織物株式会社	175	昭和9.11.17			
2	第参回体育大会		400	昭和9			
3	遠足汐干狩 丸中したしみ会	昭和十一年五月八日 遠足汐干狩 丸中織物株式会社	350	昭和11.5.8			
4	新工場建設 祝南京陥落		400				
5	丸中工場 第四回体育大会 したしみ会	昭和九年拾月廿一日 第参回体育大会 丸中織物株式会社したしみ会	400	昭和9.10.21	日比谷商店	甘茶倶楽部 中川孝吉	後半劣化 著しい
6	飯能工場懇話会主催 第四回体育大会 丸中工場参加巻	第4回工場従業員慰安運動会 丸中織物株式会社参加出場状況 主催飯能工場懇話会 後援埼玉県工業懇話会	400	昭和10.4.21			劣化著しい
7	朝香宮御台臨 旅行大島登山 防空演習実況		400				
8	丸中工場 運動篇		400				劣化著しい
9	遠足江ノ島 安全週間 永田道ぶしん		300				

※ゴシック体が平成20年度に修復したものの。

## 保 存

### ●新収蔵資料の燻蒸

当館では、平成15年度から新規に収集した資料をビニールシートで覆う被覆燻蒸を実施している。年1回荷解室で行い、資料はその後に収蔵庫に収納される。

平成20年度は7月13日(日)の閉館後に準備を開始し、16日(水)まで行った。使用薬剤はエキヒュームSである。この間、14日(月)から17日(木)までが休館となった。

### ●収蔵庫・展示室の環境調査

また、収蔵資料に劣化をもたらす虫菌類の有無を調べるための環境調査を年2回実施している。対象は、特別収蔵庫・一般収蔵庫・収蔵庫前室・荷解室・常設展示室・特別展示室・展示ホール・学習研修室・図書室・管理室で、内容は、昆虫生息調査48ヶ所(歩行性昆虫トラップ42・飛翔性昆虫トラップ6)、空中浮遊菌調査8ヶ所、表面付着菌調査が5ヶ所である。

当該年度は1回目を6月19日から7月18日まで、2回目を9月26日から10月31日までの期間で実施した。調査の結果、資料に影響を及ぼすほどの害虫

や菌類の存在は確認されず、展示室・収蔵庫は良好な環境にあることがわかった。

なお環境調査は、山手用地内において絵画を収蔵している土蔵に対しても、同時期に行っている。

### ●その他

そのほか、名栗庁舎内にある旧名栗村史編さん事務室に保管されている名栗地区の史料を対象に、10月16日から19日にかけて被覆燻蒸を実施した。使用薬剤はアルプである。



燻蒸される新収蔵資料

地域の歴史、文化についての調査・研究は、地域博物館にとって核となる重要な業務である。特別展などの展示や学習会、レファレンスの対応、資料の貸出利用など、博物館活動のすべては、これを基盤として成り立っているためである。しかし、現状では特別展開催のための資料調査が中心となっており、今後は当館の存在意義を示すために必要な調査研究活動のあり方を検討していく必要があるだろう。

## 特別展に関する調査

毎年秋に開催される特別展は、当館が最も力を入れている事業であり、特別展図録はこの調査成果の集大成とも言える。

平成20年度の特別展は、名栗村史編さん事業完結記念としてその成果を展示することになっていた。したがって、当初の予定とは異なり、特別展開催が『名栗の歴史(下)』の刊行前になってしまったものの、基礎的な調査は終わっている状態であった。そのため、今回は、展示資料の選択と地域や個人の家、社寺などに所在している資料の状況確認を目的として調査を行った。

また、近世史料については学習院大学史料館の「武蔵国秩父郡上名栗村町田家文書」が中心となるため、同館にて資料の確認や写真撮影等を実施した。



学習院大学史料館

## 古文書詳細調査

飯能市教育委員会では、平成16年度より古文書所在確認調査を実施している。その結果、新たな史料群の存在が明らかとなってきたが、同時にこれをきっかけとして当館に史料を寄贈したり、寄託することを希望する家も多くなってきている。新たに収蔵するに至った資料の整理は喫緊の課題である。

また、当館には飯能市史編さん事業終了後移管された文書、平成2年の開館後収集した文書を収蔵しているが、これまでは展示会に関するものの調査を除けば、史料集を刊行するなど収蔵資料の価値を高める活動はほとんど行うことができていない。

しかし一方でこれら地域の遺産は、本市において

市民主体で積極的に取り組んでいるエコツーリズム事業において活用することが可能なものであり、少しでも早くそれらを調査し、その成果を還元できるようにすることが求められている。

こうした課題に向け、当館では平成19年度より当館で収蔵している古文書の翻刻や内容の調査、特定のテーマに関係する史料の所在調査を行っていくこととした。今年度は、埼玉県域あるいは多摩地域以外に所在する飯能戦争関係史料の所在調査を実施した。その結果、『大日本維新史料稿本』などから50を超える史料を確認することができた。

## 刊行図書

- 特別展図録「名栗の歴史 ―森林とともに歩んだ文化をさぐる―」  
A 4判56ページ（平成20年10月19日発行）
- 収蔵資料目録4（収蔵文書目録その1）「武蔵国高麗郡矢嵐村中村家文書目録」  
A 4判160ページ（平成21年3月20日発行）
- 館報「郷土館のプロフィール」第5号  
A 4判96ページ（平成21年3月31日発行）



平成20年度の刊行物

## 郷土館だより

「郷土館だより」は、当館の事業を知っていただくための広報誌で、平成13年5月1日に創刊号を発行した。その後、都合により回数が減った年もあるが、年4回、季節ごとに発行することを目標にしている。

費用の点から、全戸配布ではなく各戸回覧としており、配布にあたっては、自治会・町内会の皆様にご理解とご協力をいただいている。

### ○平成20年度の「郷土館だより」

号数	発行日	内容
第24号（初夏号）	平成20年6月15日	平成20年度の主な事業予定／研究紀要第4号の内容／第3回「マイ・コレ。」（案内）／第10回定点撮影プロジェクト展（案内）／『名栗の民俗（下）』・『名栗の歴史（上）』刊行
第25号（初冬号）	平成20年11月15日	特別展「名栗の歴史」好評開催中／「むかしのくらし―民家の台所再現―」（案内）／これまでの展示・事業／博学連携…小中学校への出張授業

## ホームページ

インターネットの普及に伴い、情報提供の手段としてホームページの有効性が増してきたため、当館では、平成14年10月にホームページの公開を開始した。その後、当館で更新できる体制を整え内容を検討して、平成19年4月8日から全面更新した。その内容や考え方は次のとおりである。

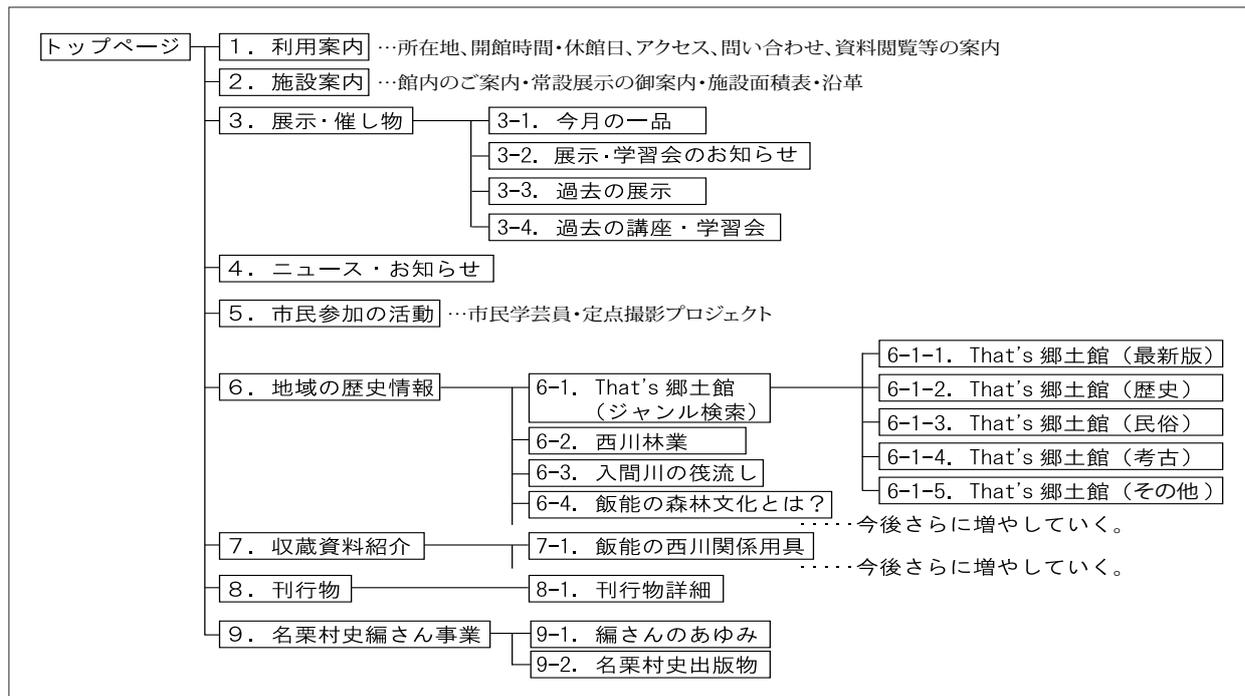
- ①郷土館に関する案内を充実させる。
- ②地域情報や歴史情報を掲載し、一般の人が調べられるホームページとする。
- ③飯能市のホームページの範囲内で構成する。
- ④更新しやすいようなページ構成にする。

### ●郷土館ホームページアクセス件数

月	件数	昨年度までの平均
4月	351	454.0
5月	431	309.5
6月	462	433.5
7月	543	341.0
8月	479	448.0
9月	798	326.5
10月	136	373.0
11月	(データなし)	294.5
12月	405	259.0
1月	347	366.0
2月	567	408.0
3月	368	600.0
合計	4,887	4613.0
1ヶ月平均	444.3	384.4



### ●ホームページ構成図



<http://www.city.hanno.saitama.jp/kyodo/>

# 名栗村史編さん事業

名栗村史編さん事業は、平成2年度に名栗村村制施行100周年記念事業として、「新・名栗村史」編さんを目指した資料調査実施を決定したことに始まる。その後、平成10年4月に名栗村史資料調査員が委嘱され、平成12年3月に名栗村史研究『那栗郷』及び名栗村史料目録の刊行が開始された。そして平成14年度の名栗村史編さん委員会の設置、平成15年4月の名栗村史編さん室の開設を経て、『名栗の民俗(上)』が完成したのは、閉村間際の平成16年11月のことであった。なお、名栗村時代には『那栗郷』4冊、史料目録6冊が発行されている。

以上のような経緯をたどった当該事業は、平成17年1月の飯能市との合併により当館の所掌するところとなった。その後、平成19年度末までに『那栗郷』2冊、史料目録4冊、本編である『名栗の民俗(下)』・『名栗の歴史(上)』を刊行したところである。しかし、『名栗の歴史(下)』の発行には至らず、完結は平成21年度の予定である。

## 事業経過

昨年度に引き続き、『名栗の歴史(下)』の原稿執筆をすすめていった。そして、平成20年5月31日(土)に、近現代史を担当している4人の編集委員及び専門調査員が出席して部会を開催し、原稿内容の確認を行った。その後ほとんどの原稿が揃ったため、7月に印刷業者を決定し印刷にかかる作業をす

すめていた。しかし、編集委員長が途中で体調をくずし編集作業が行えない状態となってしまった。

そこで、平成21年1月10日に編さん委員会を開催し、今後の方策について協議した。その結果、現状では年度内刊行は難しいため、『名栗の歴史(下)』の刊行を平成21年度まで延期することとした。

## 村史編さん史料の保存

名栗村史編さんのため調査をさせていただいた民間所在史料は65件にのぼる。その多くが事業完了予定であった平成19年度までの借用となっていたため、平成20年度以降の管理について各所蔵者との協議を行った。

その結果、当館へ寄贈されることになったものが15件、寄託が25件となり、合計40件については、これまで通り名栗庁舎の旧名栗村史編さん事務室内で保管されることとなった。また、それ以外の24件については所蔵者に返却した。

返却分については、今後定期的に史料の状況を確認するなど、保存に向けた支援が必要となっていくだろう。



編さん史料の保管状況

# 郷土館協議会

郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため郷土館協議会がおかれている（飯能市郷土館条例第10条）。協議会は市議会議員、学校教育の関係者、社会教育の関係者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

任期：平成18年7月1日～平成20年6月30日

## 【委員名簿】

(平成20年4月1日～6月30日)

職名	氏名	役職	備考
会長	大野 邦弘	郷土館友の会会長	
副会長	村野みどり	おはなしの会「なんじゃもんじゃ」代表	
委員	小見山 進	市議会議員	
委員	中村恵太郎	加治東小学校校長	
委員	黒澤 秀美	吾野中学校校長	
委員	柳澤 陽子	文芸飯能選考委員	
委員	森泉 忠雄	飯能絵画連盟	
委員	田島 哲也	林業家	
委員	波多野宏之	駿河台大学教授	
委員	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	

## 【開催状況】

第1回 平成20年5月30日(金) 午前10時～

(議事)

- ・平成19年度事業報告について
- ・平成20年度事業予定について

任期：平成20年7月1日～平成22年6月30日

## 【委員名簿】

(平成20年7月1日～平成21年3月31日)

職名	氏名	役職	備考
会長	村野みどり	おはなしの会「なんじゃもんじゃ」代表	
副会長	柳澤 陽子	文芸飯能選考委員	
委員	小見山 進	市議会議員	
委員	中村恵太郎	加治東小学校校長	平成21年3月31日退任
委員	黒澤 秀美	吾野中学校校長	
委員	森泉 忠雄	飯能絵画連盟	
委員	田島 哲也	林業家	
委員	波多野宏之	駿河台大学副学長	
委員	保坂 裕興	学習院大学教授	
委員	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	

## 【開催状況】

第2回 平成20年7月18日(金) 午前10時～

(議事)

- ・平成20年度事業の経過
- ・平成20年度事業の今後の予定について

・特別展「名栗の歴史」について

・平成21年度事業予定について

第3回 平成20年11月5日(水) 午前10時～

(議事)

- ・平成20年度の事業経過及び今後の予定について

第4回 平成21年3月18日(水) 午前10時～

(議事)

・民家の台所再現、小学3年生見学対応について

・平成20年度事業経過について

・平成21年度事業計画(案)について

# 博物館実習

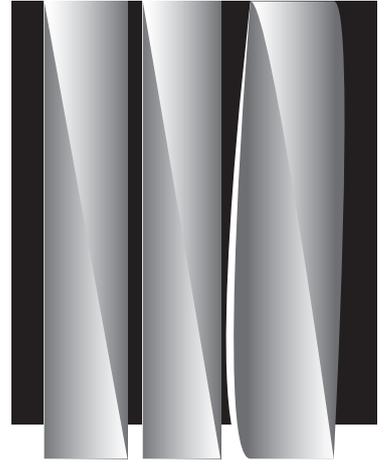
当館では、市民サービスの一環として大学の学芸員養成課程の博物館実習を受け入れている。  
原則として、市民とみなされる世帯に属する子弟で博物館学概論の単位を修得した学生がその対象となる。

実施期間 平成20年7月31日(木)～8月9日(土) 7日間

実習生名 高井博司(駿河台大学)

	実施日	曜日	午 前	午 後
1	7月31日	木	夏休み子どもクラブ準備(館長・村上)	当館の施設について(村上)
2	8月1日	金	夏休み子ども歴史教室準備(尾崎)	教育センター2年次研修会参加(尾崎)
3	8月2日	土	夏休み子ども歴史教室準備(尾崎)	
4	8月5日	火	夏休み子ども歴史教室運営(尾崎)	夏休み子ども歴史教室準備(尾崎)
5	8月6日	水	夏休み子ども歴史教室運営(尾崎)	夏休み子ども歴史教室片づけ(尾崎)
6	8月8日	金	夏休み子ども歴史教室反省 当館の運営について(尾崎)	写真資料の整理(尾崎)
7	8月9日	土	古文書の整理(尾崎)	実習のまとめ(尾崎)

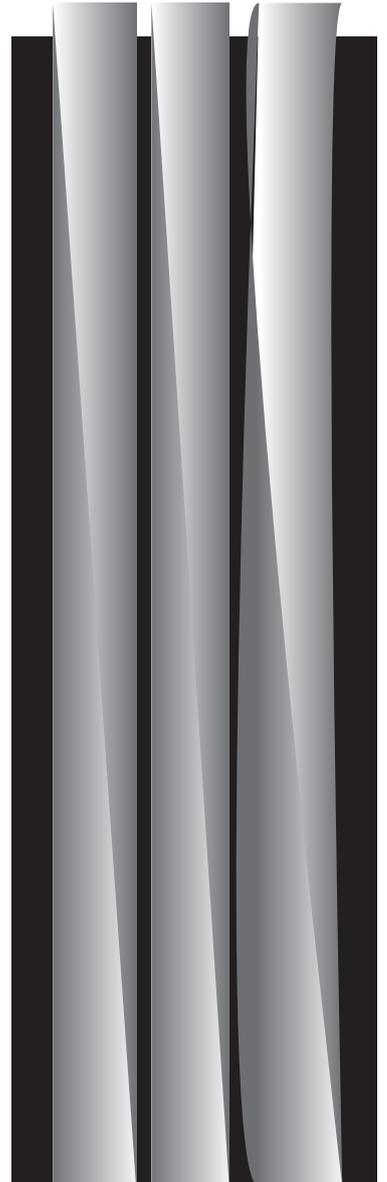
( )は指導者名



## 第 3 章

…… Chapter 3 ……

# 【各種データ】



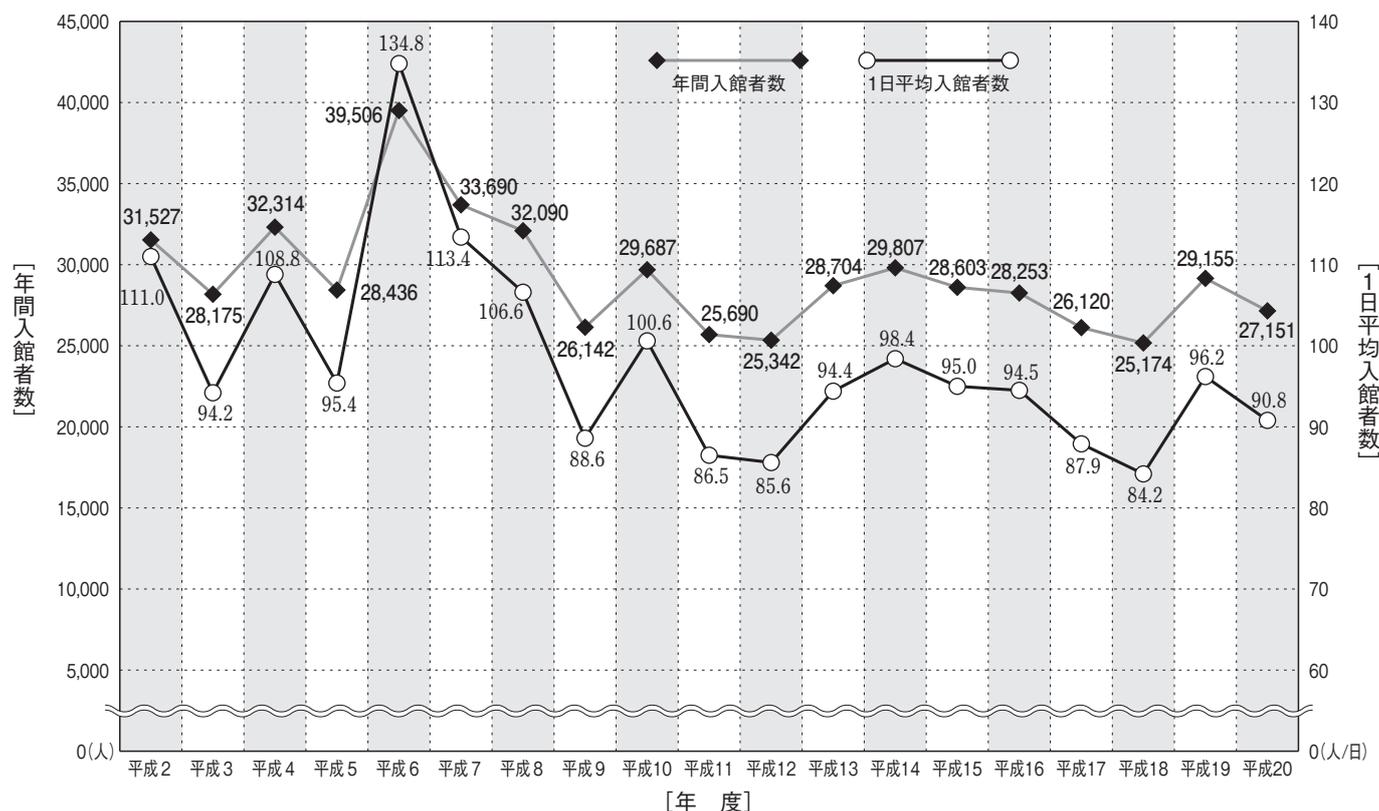
# 入館者数

月	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
	開館日数	合計人数	1日平均	開館日数	合計人数	1日平均	開館日数	合計人数	1日平均
4	26	2,168	83.4	26	2,525	97.1	25	2,271	90.8
5	25	2,052	82.1	26	2,388	91.8	27	1,851	68.6
6	23	1,698	73.8	23	2,211	96.1	25	1,694	67.8
7	26	1,901	73.1	26	1,834	70.5	24	1,773	73.9
8	27	2,079	77.0	27	2,308	85.5	27	2,203	81.6
9	26	2,210	85.0	26	2,034	78.2	24	1,899	79.1
10	26	2,227	85.7	26	2,458	94.5	27	2,342	86.7
11	24	2,141	89.2	26	3,051	117.3	26	3,391	130.4
12	23	1,436	62.4	23	1,929	83.9	22	1,724	78.4
1	23	2,280	99.1	23	2,470	107.4	23	2,716	118.1
2	24	2,424	101.0	25	2,470	98.8	23	2,727	118.6
3	26	2,558	98.4	26	3,477	133.7	26	2,560	98.5
合計	299	25,174	84.2	303	29,155	96.2	299	27,151	90.8

開館(平成2年度)から平成20年度末までの

総入館者数	555,566	人
開館日数	5,657	日
1年平均入館者数	29,240.3	人/年
1日平均入館者数	98.2	人/日

## <入館者数の推移>



# 歳出予算

(単位：明記したものの以外は千円)

事業名 年度	郷土館 事務費	展示・学習会 開催事業	資料収集・ 保存事業	調査・ 研究事業	郷土館 施設管理事業	郷土館事業費 小計	名栗村史 編さん事業費	郷土館費 合計	A(%)	B(円)	C(円)
18	1,678	1,427	4,579	254	7,899	15,837	7,968	23,805	0.07%	188.0円	629.1円
	10.6%	9.0%	28.9%	1.6%	49.9%						
19	1,655	3,672	2,618	576	7,633	16,154	17,424	33,578	0.07%	192.7円	554.1円
	10.2%	22.7%	16.2%	3.6%	47.3%						
20	3,358	3,896	4,063	200	7,875	19,392	2,409 ※平成10年度より繰越	21,801	0.08%	232.0円	714.2円
	17.3%	20.1%	21.0%	1.0%	40.6%						

(当初予算。ただし人件費は除く)

郷土館事業費(人件費・名栗村史編さん事業費除く)の

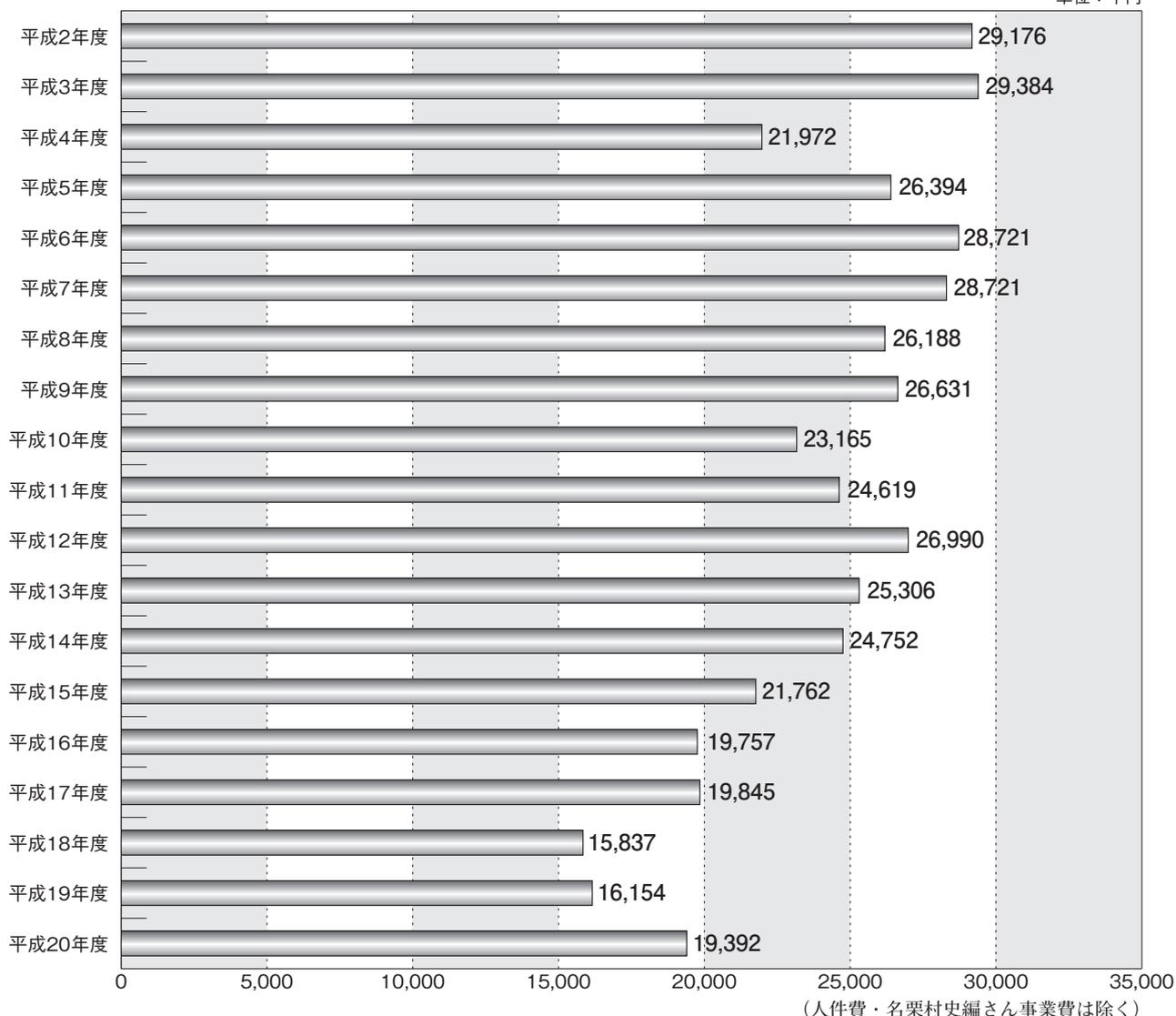
A：飯能市一般会計当初予算に対する比率

B：市民1人あたり(当該年度の4月1日現在の人口)の金額

C：入館者1人あたりの金額

## <飯能市郷土館予算額の推移>

単位：千円



## 図書資料寄贈機関

### 埼玉県

上尾市遺跡調査会  
上尾市教育委員会  
朝霞市博物館  
跡見学園女子大学花蹊記念資料館  
伊奈町  
入間市博物館  
浦和くらしの博物館民家園  
小川町教育委員会  
桶川市教育委員会  
(社) ガールスカウト日本連盟埼玉県第61団  
春日部市教育委員会  
春日部市郷土資料館  
川口市立科学館  
川口市教育委員会  
川越市教育委員会  
川越市立中央図書館  
川越市立博物館  
川島町  
栗橋町教育委員会  
国税庁税務大学校租税資料館  
埼玉地区文化財担当者会  
埼玉県  
埼玉県教育委員会  
埼玉県平和資料館  
(財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
埼玉県立さいたま川の博物館  
埼玉県立近代美術館  
埼玉県立さきたま史跡の博物館  
埼玉県立文書館  
埼玉県立嵐山史跡の博物館  
埼玉県立歴史と民俗の博物館  
さいたま市  
さいたま市立博物館  
埼玉新聞社  
さいたま文学館  
坂戸市教育委員会  
幸手市教育委員会  
狭山古文書勉強会  
駿河台大学資格課程  
全国高等学校総合体育大会飯能市実行委員会  
鶴ヶ島市遺跡調査会  
戸田市教育委員会  
戸田市立郷土博物館

日本工業大学工業技術博物館  
鳩ヶ谷市立郷土資料館  
羽生市教育委員会  
飯能市環境部環境緑水課  
飯能市教育委員会  
飯能市総務部庶務課  
飯能市福祉部健康づくり推進室  
(飯能市立) 加治小学校100周年記念事業実行委員会  
(飯能市立) 北川小学校閉校実行委員会  
(飯能市立) 美杉台小学校  
飯能市立図書館  
(飯能市) 畑井自治会  
富士見市立難波田城資料館  
富士見市立水子貝塚資料館  
ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館  
本庄市立歴史民俗資料館  
(有) メモリアルトネサービス  
吉川市教育委員会  
立正大学熊谷校地遺跡調査室  
立正大学博物館  
蕨市立歴史民俗資料館

### 東京都

荒川区教育委員会  
板橋区教育委員会  
板橋区立郷土資料館  
岩崎書店  
青梅市教育委員会  
青梅市郷土博物館  
岡三リビング(株)  
学習院大学史料館  
葛飾区郷土と天文の博物館  
加藤建設(株)・並木不動産(株)  
加藤建設(株)埋蔵文化財調査部  
環境省自然環境局生物多様性センター  
北区教育委員会  
共和開発(株)  
清瀬市郷土博物館  
(株)KS コーポレーション  
品川区教育委員会  
(財) 渋沢栄一記念財団  
渋沢史料館  
(株) 四門文化財研究室  
杉並区立郷土博物館

大成エンジニアリング株式会社  
台東区文化財調査会  
(財)たましん地域文化財団  
中小企業家同好会全国協議会  
テイケイトレード(株)埋蔵文化財事業部  
東京都江戸東京博物館  
(財)東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター  
東京都美術館  
豊島区教育委員会  
豊島区立郷土資料館  
(財)日本博物館協会  
日本ミュージアムマネジメント学会  
八王子市教育委員会  
パルテノン多摩  
日野市  
日野市立新選組のふるさと歴史館  
府中市郷土の森博物館  
(財)府中文化振興財団  
福生市教育委員会  
文化環境研究所  
町田市立自由民権資料館  
港区教育委員会  
明治大学学芸員養成課程  
明治大学博物館

#### その他

赤穂市立歴史博物館  
稲敷市立歴史民俗資料館  
大阪大谷大学  
小山市立博物館  
各務原市歴史民俗資料館  
笠懸野岩宿文化資料館  
上総古文書の会  
神奈川大学  
神奈川大学日本常民文化研究所

「カビ対策マニュアル」作成協力者会議  
かみつけの里博物館  
群馬県立歴史博物館  
国立歴史民俗博物館  
相模原市立博物館  
寒川町史編集委員会  
塩尻市教育委員会  
塩尻市立平出博物館  
下関市立考古博物館  
衆議院憲政記念館  
障害者アート推進のための懇談会  
田原市教育委員会  
田原市博物館  
千葉県立文書館  
土浦市立博物館  
津山郷土博物館  
富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館  
流山市教育委員会  
流山市立博物館  
南丹市日吉町郷土資料館  
二宮町  
野田市郷土博物館  
秦野市  
東町立歴史民俗資料館  
平塚市博物館  
北海道立北方民族博物館  
松代文化施設等管理事務所  
松戸市立博物館  
丸井図書出版株式会社  
水戸市立博物館  
横浜開港資料館  
吉胡貝塚資料館  
立命館大学国際平和ミュージアム  
歴史学と博物館のあり方を考える会

## 職員

館長 新井 孝治  
主幹(学芸員) 柳戸 信吾  
主査(学芸員) 尾崎 泰弘  
学芸員 村上 達哉

臨時(資料整理・展示準備)  
石田 朋子  
入子美佐子  
臨時(事務) 加藤 緑  
臨時(清掃) 白石 敏之

# 飯能市郷土館条例

平成元年12月27日 条例第33号

(設置)

第1条 郷土の歴史、民俗及び考古に関する資料(以下「資料」という。)の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、これらの活用を図り、もって市民の郷土愛と文化の向上に寄与するため、飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(業務)

第2条 郷土館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料の調査及び研究に関すること。
- (3) 資料の展示及び利用に関すること。
- (4) 資料についての専門的な知識の啓発及び普及に関すること。
- (5) その他郷土館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(管理)

第3条 郷土館は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 郷土館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第5条 郷土館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)である場合を除く。)
- (2) 休日の翌日(この日が日曜日又は休日である場合を除く。)
- (3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第6条 郷土館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第7条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、郷土館の利用を制限することができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) その他郷土館の管理上支障があると認められるとき。

(使用料)

第8条 郷土館の使用料は、無料とする。

(損害賠償)

第9条 郷土館の利用者は、自己の責めに帰すべき

理由により、郷土館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。

(郷土館協議会)

第10条 郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため、飯能市郷土館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(協議会の組織)

第11条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 市議会議員
- (2) 学校教育の関係者
- (3) 社会教育の関係者
- (4) 学識経験者

(委員の任期)

第12条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第13条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第14条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第15条 協議会の庶務は、郷土館において処理する。

(委任)

第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。  
(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 2 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。

[次のよう] 略

# 飯能市郷土館条例施行規則

平成2年3月31日 教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市郷土館条例(平成元年条例第33号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、郷土館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、郷土館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室(以下「学習室等」という。)は、郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等(図書室を除く。)を利用しようとする者は、飯能市郷土館施設利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(郷土館資料の利用及び許可)

第5条 郷土館の資料(以下「資料」という。)は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市郷土館資料利用許可申請書(様式第3号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館資料利用許可書(様式第4号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、利用の条件を変更し、又は利用の許可を取

り消すことができる。

(1) 利用許可の申請に偽りがあったとき。

(2) 条例又はこの規則に違反したとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第7条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市郷土館資料寄贈申請書(様式第5号)を、資料を寄託しようとする者は、飯能市郷土館資料寄託申請書(様式第6号)を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市郷土館資料受領書(様式第7号)を、資料を寄託した者に対して飯能市郷土館資料受託書(様式第8号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、郷土館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第7号)

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年教委規則第5号)

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

附 則(平成15年教委規則第9号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年教委規則第20号)

この規則は、平成18年1月1日から施行する。

様式第1号～第8号

(省略)





埼玉県飯能市大字飯能258-1

TEL (042)972-1414 FAX (042)972-1431